

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

岐阜県飛騨市宮川町塩屋に島遺跡及び塩屋金清神社は位置する（第1図）。塩屋金清神社遺跡の出土遺物は、1997（平成9）年7月29日に「塩屋金清神社遺跡出土品」として「岐阜県重要文化財（考古資料）」に指定された。指定理由は「塩屋金清神社遺跡出土品の特徴である石棒の製作が、原石露頭、製作過程、製作工具の具体的資料によって明らかになった例は全国的にも稀で本出土品の価値は高い。また、出土した土器から縄文時代後期前半の遺跡であることが分かり、石棒製作の時代も判明した。さらに、原材料が「塩屋石」であることにより、この地で製作された石棒が飛騨地域はもとより北陸地方にまで分布していることが知られるようになった」とのことであった。

これを受け、町村合併により飛騨市が誕生してから、2005・2010（平成17・22）年度に重要考古資料として岐阜県に情報提供していた。しかし、調査当時においては、出土品に中期の石棒と考えられる大型の石棒があったものの、中期の石棒製作遺跡については不明という課題があった。また、岐阜県重要文化財には発掘調査報告書等で公開していない資料が含まれているという課題もあった。

この1点目の課題に対し、2008（平成20）年度に島遺跡で発掘調査を実施、2011（平成23）年度末に報告書を刊行し、中期の石棒製作遺跡の存在を示した。これにより、飛騨市宮川町塩屋において、中期から後期の2つの石棒製作の痕跡を出土品で示すことができるようになった。なお、2012年度には島遺跡出土品を発掘された日本列島展にも出品している。

以上の成果を受け、飛騨市は、岐阜県より2022（令和4）年8月24日付け文伝第505号にて依頼があった「重要考古資料に関する懇談会（北陸・中部・東海地区）」に改めて情報提供を行った。岐阜県からは、2023（令和5）年3月31日付けで、9件の懇談会リストのうち、「塩屋金清神社遺跡・島遺跡」が2番目に掲載された結果が通知された。岐阜県の重要考古資料として位置付けられたことを受け、飛騨市では文化庁及び岐阜県の指導・助言を受けて、2023～2025（令和5～7）年度に「島遺跡・塩屋金清神社遺跡出土品」の調査を行うこととなった（第1表）。この調査成果を公開することで、岐阜県重要文化財の指定物件を全て網羅することができ、2点目の課題を解決することとした。

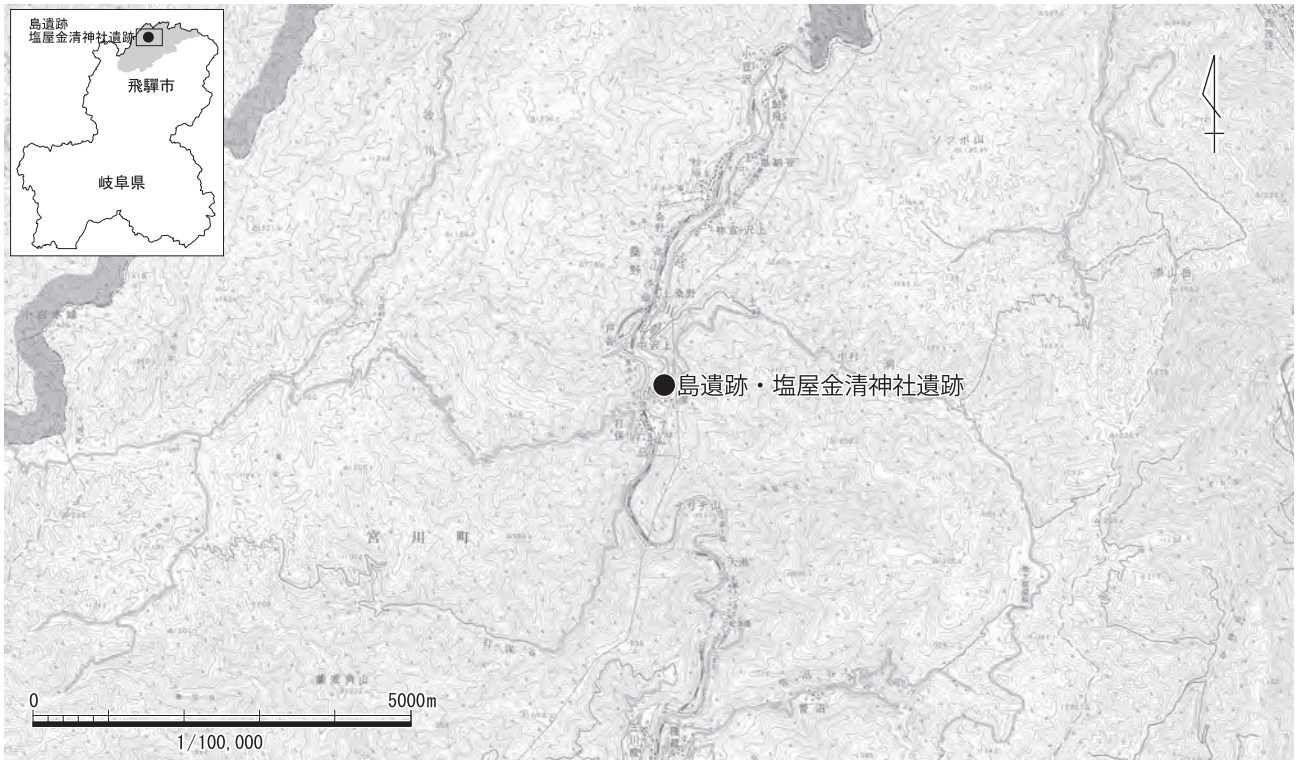
第2節 調査の方法と経過

島遺跡及び塩屋金清神社遺跡の出土品は、それぞれの発掘調査報告書の刊行により、島遺跡737点、塩屋金清神社遺跡890点について事実報告がなされ、縄文時代中期から後期にかけての石棒製作遺跡と評価されている（飛騨市教育委員会2012、宮川村教育委員会2000）。それらの出土品のうち、今回の調査対象は、縄文時代中期から後・晩期にかけて塩屋石製石製品の製作に関わる資料及び時代の遷り変わりを把握できる代表的な資料、年代の指標となる代表的な縄文土器とし、既報告資料と岐阜県

2 第1章 調査の経過

重要文化財「塩屋金清神社遺跡出土品」に指定されているが報告書未掲載であった資料を合わせて377点である。

調査は2023～25（令和5～7）年度にかけて行い、詳細な資料観察、一覧表の作成、フルサイズデジタル一眼レフカメラでの写真撮影、一部三次元計測による記録を取得した。調査の過程の中で、2025（令和7）年4月4～5日には、土器観会を実施し、縄文時代の専門家らに年代的位置付けについて指導・助言を得た。2025年度に報告書を作成した。



第1図 位置図

第1表 調査の体制

2023(令和5)年度		2024・2025(令和6・7)年度	
教育長	沖畑 康子	教育長	下出 尚弘
事務局長	野村 賢一	事務局長	大庭 久幸
文化振興課長	舟本 智樹	文化振興課長	尾賀 寿治
課長補佐	—	課長補佐	三好 清超 (2024年度は係長兼務)
担当	三好 清超 (2023年度は係長兼務)	担当	保谷 里歩

第2章 調査の成果

第1節 島遺跡及び塩屋金清神社遺跡の概要

1 これまでの研究

飛騨市宮川町塩屋では、古くから石棒に関する縄文時代の資料が出土すると知られている。広く知られるようになった契機は、1886（明治19）年に現在の飛騨市古川町大野にて佐藤泰郷が開催した古物陳列会である。この時に、佐藤により編集された『千代乃かゞみ 拾遺』に、現在の塩竈金清神社のご神体となっている石棒が描かれている（佐藤1886）。考古学的な研究としては、岡巖による「飛騨の石器」（岡1887）を始めとした『東京人類学会雑誌』や、江馬修が編集した『ひだびと』上での資料紹介（早川1940・林1941など）が、明治から昭和初期までなされてきた。

具体的に石棒の調査研究が行われるようになったのは、1970年代以降の発掘調査である。初めて塩屋で石棒製作の可能性に言及したのは南山大学であり（南山大学人類学博物館1981）、その後、宮川村教育委員会の調査で、後期の石棒製作遺跡と明らかになった（宮川村教育委員会2000ほか）。その成果を受け、1995年には「石棒の謎を探る」と題したシンポジウムが開催され、石棒研究史の概観、飛騨出土の石棒集成、出土状況からの使用例推定など様々な問題提起を行った（宮川村教育委員会1995）。

近年では、大量に未成品が出土した理由について、製作自体が目的であったという考え方（林2007）と、成興野型石棒を志向した結果として生じたという考え方（長田2022）が示されている。

2 調査履歴

岐阜県飛騨市宮川町塩屋には、深いV字谷に侵食された西向き緩斜面に、2つの縄文遺跡が存在する。島遺跡と塩屋金清神社遺跡である。島遺跡は宮川に面した河岸段丘縁に、塩屋金清神社遺跡は山麓に立地する。

島遺跡は国道360号種蔵・打保バイパス道路改築事業に伴って発掘調査を実施した。2000年11月～12月初旬まで試掘調査を実施し、その結果を受けて2008年8月20日～12月16日まで1,996㎡の本発掘調査を実施した（飛騨市教育委員会2012）。

塩屋金清神社遺跡は、学術調査、観光開発、遺跡範囲の確認、国道360号種蔵・打保バイパス道路改築事業に伴って発掘調査を実施してきた。まず、1973年に行われた南山大学による発掘調査で、石棒製作と密接に関わること、近隣の遺跡に石棒を供給したことに言及された（南山大学人類学博物館1981）。次に観光開発に伴い、1991年8月に試掘調査を実施し、A地点として1992年4月初め～11月下旬まで764㎡の発掘調査を実施した（宮川村教育委員会2000）。また、範囲確認等を目的に、B地点として1993年8月26日～9月27日まで、92㎡の発掘調査を実施した（宮川村教育委員会1999）。さらに、島遺跡と共に、試掘確認調査を経て（宮川村教育委員会2002）、2008年8月20日～12月16日に本発掘調査を実施した（飛騨市教育委員会2012）。なお、各種開発に伴い、これらとは別に2012・2020年度に試掘確認調査を行っている。

3 調査及び保護の概要

島遺跡では、宮川に向かって弧状に張り出す形で、竪穴建物跡 26 軒を確認した。その内側には広場があり、広場跡を取り囲むように立石遺構と礫を伴う土坑が配置される。それらの南側には貯蔵穴と考えられる土坑群も確認した。縄文土器の年代観から、縄文時代中期中葉から後期初頭にかけての集落の様子が明らかになったと考えられる。また、石棒の原石、剝離段階、敲打段階、研磨段階、完成品が 22 点出土し、石棒製作工程が明らかになった。完成品は廃棄されている状況でも出土した。したがって、島遺跡では、石棒製作、使用、廃棄という一連の行為が行われていたと判明した。

塩屋金清神社遺跡では、土砂崩れによる厚い堆積土層に遺物が混入する状況を確認した。このため、層位ごとの年代区分は困難であった。遺跡全体としては早期から晩期の遺物が出土し、後期前葉が最も多く、後期中葉から晩期中葉まで一定程度確認できる。また、石棒の原石、剝離段階、敲打段階、研磨段階、完成品が 1,074 点出土し、石棒製作工程が明らかになった。

両遺跡からは、それら石棒とその工程ごとの未成品とともに、工具となる石製品が出土した。これらから、島遺跡は中期、塩屋金清神社遺跡は後期の石棒製作遺跡と考えられた。ここで石棒が製作されたのは、遺跡の東側の山中で黒雲母流紋岩質溶結凝灰岩、通称「塩屋石」を採集することができるためである。この塩屋石は角柱状に割れやすい性質を持ち、石棒作りに適していたと考えられる。

調査後は、遺跡に隣接する飛驒みやがわ考古民俗館において保存され、展示や教育普及に活用されている。石棒のファンで構成される石棒クラブにより、市内外からボランティアを募って塩屋金清神社遺跡の石棒 1,074 本の画像及び 3D のデータ取得と公開が行われている。全国の仲間と共働してデータを整備し、発信することで、新たな仲間が加わっている。2024 年度には、地元の宮川小学校による石棒の解説も行われてた。現在は、飛驒市の石棒を核としたつながりが生まれ始めている。

第2節 島遺跡出土品

1 縄文土器（第2表、図版5・6）

1～14 は縄文土器である。中期中葉から後葉に属する一群である。

1・2 は中期中葉に属する。1 は半裁竹管状工具による施文を器面全面に施し、北陸系古府式に位置付けられる。2 は口縁部が立ち上がる器形であり、口縁部文様帯に半裁竹管状工具による施文、胴部に縄文を施し、北陸系古串田新式に位置付けられる。

3～6 は中期中葉に属する。3・4 は口縁部に半裁竹管状工具を押し当てて半弧曲線を施し、5 は口縁下に半裁竹管状工具による横位の半隆起線を施す。6 は口縁下に横位の平行沈線を施す。

7～9 は中期後葉に属する。7 は器面全面に縄文を施し、在地系に位置付けられる。8 は胴部から口縁部に向けて緩やかに外反し、平口縁に突起を持つ器形を持つ。9 は口縁下に隆帯を持つ浅鉢であり、北陸系串田新 I 式に位置付けられる。

10 は無文の浅鉢であり、中期末葉の前田・岩嶺野式に位置付けられる。

11・12 は隆帯と沈線により唐草文を施し、中期後半の信州系唐草文系第 3 段階に位置付けられる。13 は口縁下の 2 本の隆帯間に沈線を施し、中期後半の在地系に位置付けられる。14 は口縁部文様帯に渦巻文を施し、中期後半の関東系加曾利 EⅢ式に位置付けられる。

2 石製品等 (第3表、図版7・8)

15～32 は塩屋石製の石棒に関する出土品である。15～20 は石棒原石である。柱状節理の状態である。21～24 は剥離段階のものである。稜に剥離痕跡を有する。24 は凹み痕を有し、敲石に転用された可能性がある。25～28 は、敲打痕を有する敲打段階のものである。27 は頭部を作出する敲打痕を有する。29 は両端部が遺存し、頭部作出を意識した敲打痕を有する研磨段階のものである。30～32 は全体に丁寧な研磨が施される石棒である。31 は破断面が被熱している。

33～45 は敲石である。33～37・39・40・50 は円礫の、38・41～44 は棒状円礫の端部や側辺に敲打痕や剥離痕を有するものである。45 は垂角礫の端部に潰れ痕と剥離痕を有する。33・39・40 は磨面を有する。

46～51 は砥石である。46～49 は手持ち砥石、50・51 は据置砥石と考えられる。

第3節 塩屋金清神社遺跡出土品

1 縄文土器 (第4～6表、図版10～13)

52～90 は縄文土器である。後期前葉から晩期前葉に属する。

52～60 は、後期前葉の北陸系気屋式に位置付けられるものである。頸部が括れる器形、口辺部に沈線、胴部に縄文を施す。61 は器形から、気屋式期の粗製土器と考えられる。

62～71 は、後期前葉の堀之内2式に位置付けられるものである。62～64 は頸部が括れ、口縁部が「く」の字状に強く屈曲する器形を持つ。4単位の波状口縁であり、波頂部を結ぶように横位の隆帯や沈線で施文する。65 は口縁部から頸部にかけての隆帯、66 は底部から胴部にかけて丸く膨らむ器形、67 は頸部が強く屈曲する器形を有する。68 は器面内外面に沈線文を施す。69 は器形が68と近似する。70・71 は沈線による渦巻文などの文様を持つ注口土器である。

72～81 は後期中葉に位置付けられるものである。72 は隆帯と沈線で顔面を表現する中空土偶の可能性のある破片である。73 は、3単位の波状口縁を呈し、波頂部に円形突起を呈する。元住吉山I式に位置付けられる。74 は胴部に一段の強い稜を有する器形から、当該期の粗製土器と考えられる。75 は、頸部に稜を有する器形から、酒見式に位置付けられる。76 は底部外側が張り口縁部にかけて開く鉢であり、堀之内2式期から加曾利B1式期併行に位置付けられる。77～79 は沈線により施文を施す小型土器である。80 は沈線による渦巻文を持つ異形土器である。81 は縄文と蛇行沈線による施文を有し、郷原型系統の土偶である。

82～85 は、後期後葉に位置付けられるものである。82～84 は胴部が開き、口縁部がわずかに内傾する器形から、井口式期から八日市新保式期に位置付けられる。85 は、無文であるが、器形から当該期の粗製土器と考えられる。86 は4単位の波状口縁を呈し、波頂部に×状沈線を施し、八日市新保式に位置付けられる。87・88 は浅鉢であり、沈線や隆帯で施文する。

89・90 は晩期前葉に位置付けられるものである。89 は、胴部が丸く膨らみ、頸部で括れ、口縁部が外反する器形であり、口縁部内面に沈線で施文する。90 は浅鉢であり、沈線による玉抱三叉文を施文する。ともに、御経塚式期に位置付けられる。

2 石製品等 (第7～15表、図版14～24)

91～259は、塩屋石製の石棒等に関する出土品である。

91～95は、石棒原石である。柱状節理の状態である。

96～151は、原石の稜線と自然面が多く残り、原石の断面形の認識が容易なものである。96～122は剥離調整を有する剥離段階のものである。123～133は、剥離調整のあと敲打調整を行っている敲打段階のものである。134～137は、原石の稜線に敲打調整を有する敲打段階のものである。138～140は、剥離調整、敲打調整の後に研磨を施している研磨段階のものである。141～143は、敲打調整のみ行われたものに、研磨を施した研磨段階のものである。144～151は、原石の稜線に研磨を加えた研磨段階のものである。

152～185は、原石の稜線と自然面が消えつつあるが、原石の断面形の認識が可能なものである。152は、剥離調整を有する剥離段階のものである。153～168は、剥離調整のあと敲打調整を行っている敲打段階のものである。169は、原石の稜線に敲打調整を有する敲打段階のものである。170～174は、剥離調整、敲打調整の後に研磨を施している研磨段階のものである。175～177は、敲打調整のみ行われたものに、研磨を施した研磨段階のものである。178・179は、敲打調整のみ行われたものに、研磨を施した研磨段階のものである。180～185は、原石の稜線に研磨を加えた研磨段階のものである。

186～227は、原石の稜線と自然面がほとんど消え、原石の断面形の認識が困難なものである。186～207は、剥離調整のあと敲打調整を行っている敲打段階のものである。208～218は、敲打調整により前段階の調整の有無が確認できないものである。219～223は、剥離調整、敲打調整の後に研磨を施している研磨段階のものである。224～227は、敲打調整により前段階の調整の有無が確認できないものに、研磨を施している研磨段階のものである。

228～254は、原石の稜線と自然面が消え、完成品と考えられる石棒である。228～244は、断面形が円形を呈する。245～254は、刃部状の加工を施すものである。

255～258は、石冠である。255～257は頭部と基部の区分が明瞭である。258は頭部と基部の区分が不明瞭である。259は、御物石器である。

260～329は敲石である。260～268は自然礫の端部を使用したものである。269～280は二次的な加工が認められるもののうち、自然礫の端部に鈍角の単一剥離面を設けてたもので、剥離面の稜線を使用しているものである。281～302は、二次的な加工が認められるもののうち、自然礫あるいは厚手の剥片に複数の刃部を作出したものである。303～329は、厚手の剥片の縁辺を使用するもの、または剥片に二次的な調整を加えて楕円形または円形に成形したものである。横刃形石器に類似するが、顕著な敲打痕が認められるものが多い。

330～353は砥石である。据置砥石であり、表面、裏面、側面に砥面が認められるものである。331・332・337・342には砥面に筋がある。336・340・344・349は、破断面を砥面とする。

354～377は剥片である。354～370は小形、371～374は中形、357～377は大形である。

第2表 島遺跡出土縄文土器一覧表

番号	種別 器種	法量 (cm)				遺存率 (%)	品質形状等	出土 地点	報告書 掲載番号	図版 No.
		口径	器高	底径	最大幅					
1	縄文土器 深鉢	24.0	28.8	10.5	24.5	90	深鉢形、口縁部・胴部わずかに欠損、2群2類、焼成普通、平口縁・端部内反、口縁部に半裁竹管による沈線、頸部に加飾隆帯、胴部に蛇行する加飾隆帯及び半裁竹管による沈線、胴下半部に縦位の沈線、内外面に煤付着、多数片接合。	SZ38	『2012』p.111 図94-343	5
2	縄文土器 深鉢	37.0	(35.9)	—	38.0	50	深鉢形、口縁部から胴部残欠、3群1類、焼成普通、平口縁外反、口縁部に幅広の加飾隆帯・沈線、頸部に多段の隆線・一部互の字状、胴部に縄文、内面炭化物・外面煤付着、多数片接合。	SX280	『2012』p.152 図119-472	5
3	縄文土器 深鉢	34.0	41.5	14.0	34.0	90	深鉢形、胴部・底部一部欠損、6群1類、焼成普通、平口縁・端部外反、口縁部に半裁竹管を押し当てた半弧曲線、胴部は縄文・一部に細沈線、底面すり消し、内面炭化物・外面煤付着、多数片接合。	SX280	『2012』p.153 図120-475	5
4	縄文土器 深鉢	21.6	23.0	—	21.6	80	深鉢形、口縁部から底部一部欠損、6群1類、焼成普通、平口縁・外反（内面に段）、口縁部に半裁竹管を押し当てた加飾隆線、胴部は縄文、内外面煤付着、多数片接合。	SX280	『2012』p.153 図120-476	5
5	縄文土器 深鉢	20.0	23.5	9.0	21.0	70	深鉢形、口縁部から胴部一部欠損、6群3類、焼成普通、平口縁・内湾、口縁部下位に半裁竹管による平行沈線・波状文、胴部に縄文・波状文の下頂部からロンギング手法コンパス文、底面に網代（1越1潜1送）、多数片接合。	SX471	『2012』p.161 図128-545	5
6	縄文土器 深鉢	43.0	(32.0)	—	43.0	40	深鉢形、口縁部から胴部残欠、6群4類、焼成普通、平口縁・外反、口縁部に平行沈線、頸部から胴部に縄文、内面煤・外面煤及び炭化物付着、多数片接合、多数片別置。	SZ1031	『2012』p.101 図82-293	6
7	縄文土器 深鉢	29.6	44.9	14.7	29.6	90	深鉢形、口縁部から底部一部欠損、17群1類、焼成普通、平口縁・外反、頸部くびれ、口縁部から胴部にかけて縄文、底面にすだれ状圧痕（中央部すり消し）、内面炭化物・外面煤付着、多数片接合。	SK664	『2012』p.125 図103-401	5
8	縄文土器 深鉢	30.0	(16.5)	—	30.0	40	深鉢形、口縁部～胴部残欠、8群、焼成普通、口唇部に4単位の穿孔のある突起（うち1残存）、外反する平口縁、胴部に縄文、多数片接合。	SB610	『2012』p.87 図70-270	6
9	縄文土器 浅鉢	22.7	9.4	[9.7]	25.3	70	浅鉢形、口縁部から底部一部欠損、20群3類、焼成普通、平口縁・内湾、口縁部に隆帯及び列点文、胴部無文、内面器面荒れ。	SX471	『2012』p.163 図130-559	6
10	縄文土器 浅鉢	27.6	10.3	8.8	27.7	70	浅鉢形、口縁部から胴部一部欠損、20群5類、焼成普通、平口縁・端部直立、無文、多数片接合、口縁部片1を別置。	SB1008	『2012』p.105 図87-327	6
11	縄文土器 深鉢	17.5	29.3	7.0	20.5	70	深鉢形、口縁部から底部一部欠損、11群、焼成普通、平口縁・外反、口縁部から頸部にかけて橋状把手2・上端に渦巻文等の突起（1欠損）、口唇部に渦巻文2単位（1欠損）・内面に隆帯がめぐり段をなす、口縁部は交互刺突列間に渦巻文・沈線、頸部に渦巻文と沈線、胴部に隆帯によるわらび手文・渦巻文、斜位及び縦位の沈線、内面煤及び炭化物・外面煤付着、多数片接合。	SX471	『2012』p.162 図129-553	6
12	縄文土器 深鉢	18.0	26.8	7.5	18.3	80	深鉢形、口縁部～底部一部欠損、11群、焼成普通、平口縁・外反（内面に段）、口縁部に隆帯と沈線による連続した弧線文・隆帯による渦巻文1単位・弧線内に沈線、頸部に沈線、頸部と胴部の境に隆帯と渦巻文、胴部に縦位隆帯2単位（1欠損）・逆6字状の隆帯・沈線、内外面煤付着、多数片接合。	SX280	『2012』p.154 図121-481	6
13	縄文土器 深鉢	34.2	[48.0]	11.7	36.8	80	深鉢形、口縁部から底部一部欠損、12群、焼成普通、平口縁・端部内湾、口縁部に二条隆帯間に刺突列、口縁部内側に隆帯、胴部に重なり合う斜位の条線、底面に網代圧痕、内外面煤付着、多数片接合、三分割を一体に復元。	SK664	『2012』p.126 図104-400	5
14	縄文土器 深鉢	42.8	(35.9)	—	44.8	60	深鉢形、胴下半部から底部欠損、13群、焼成普通、口縁部に隆帯による渦巻文・縄文、頸部に刺突列、胴部に縦位の隆帯1単位及びY字状隆帯7単位・縄文、多数片接合。	SZ611	『2012』p.79 図63-202	5

8 第2章 調査の成果

第3表 島遺跡出土石製品等一覧表

番号	種類	法量 (cm)				遺存率 (%)	品質形状等	出土地点	報告書掲載番号	図版 No.
		長	幅	厚	重量 (g)					
15	石棒原石	25.7	13.9	13.7	6,540.0	—	塩屋石, 柱状節理。	SB1 床直	『2012』 p. 31 図18-39	7
16	石棒原石	27.7	9.2	8.6	3,131.2	—	塩屋石, 柱状節理。	SB1	『2012』 p. 32 図19-48	7
17	石棒原石	27.4	10.8	7.9	2,801.9	—	塩屋石, 柱状節理。	SB2 床直	『2012』 p. 32 図19-49	7
18	石棒原石	23.5	4.2	4.0	567.1	—	塩屋石, 柱状節理, 小形細身。	SB191	『2012』 p. 59 図45-126	7
19	石棒原石	34.0	12.8	9.3	4,659.7	—	塩屋石, 柱状節理。	SZ678 蓋石	『2012』 p. 64 図49-136	7
20	石棒原石	30.5	12.4	4.7	1,856.8	—	塩屋石, 柱状節理片。稜の風化が激しい。	SK675	『2012』 p. 127 図105-407	7
21	石棒剥離段階	41.1	13.0	10.4	6,340.0	—	両端部遺存, 塩屋石, 未成品, 剥離段階初期, 稜のみ剥離調整。	SK492	『2012』 p. 179 図144-720	7
22	石棒剥離段階	21.2	9.0	6.7	1,853.0	—	塩屋石, 未成品, 剥離段階初期, 稜の一部に剥離調整あり, 出土時樹立。	SK257	『2012』 p. 143 図112-419	7
23	石棒剥離段階	57.2	20.5	11.1	854.4	—	両端部遺存, 塩屋石, 未成品, 剥離段階初期。	大グリッド C・D・E	『2012』 p. 179 図144-721	7
24	石棒剥離段階	13.7	5.2	5.1	536.5	—	片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 凹み痕あり (敲石に転用か)。	SK492	『2012』 p. 147 図115-451	7
25	石棒敲打段階	25.4	15.3	12.8	5,792.4	—	両端部欠損か, 塩屋石, 未成品, 敲打段階初期, 剥離・敲打痕を有する。	大グリッド C・D・E	『2012』 p. 180 図145-719	7
26	石棒敲打段階	29.6	12.2	8.8	4,882.3	—	塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する, 稜を中心に剥離調整, 一部敲打調整。	SK709	『2012』 p. 143 図112-420	7
27	石棒敲打段階	72.6	17.8	15.0	25,000.0	—	両端部遺存, 塩屋石, 未成品, 敲打段階, 頭部にやぶ拵れあり。	CR17	『2012』 p. 177 図142-716	7
28	石棒敲打段階	37.8	16.1	15.2	12,400.0	—	片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 敲打段階。	CQ17	『2012』 p. 178 図143-717	7
29	石棒研磨段階	116.6	17.4	16.2	50,000.0	—	両端部遺存, 塩屋石, 未成品, 研磨段階, 頭部作出を意識した敲打痕あり。	CR17	『2012』 p. 176 図141-715	7
30	石棒	(53.0)	15.7	13.2	(16900.0)	50	身部から基部残欠, 塩屋石, 成品か, 全体に丁寧な研磨。	SK607	『2012』 p. 124 図102-391	7
31	石棒	(18.1)	13.4	10.7	(3352.7)	10	身部残欠, 塩屋石, 破断面は被熱により赤化。	SK607	『2012』 p. 124 図102-390	7
32	石棒	(47.1)	12.3	8.5	6,120.0	—	身部から基部残欠, 塩屋石, 成品, 全体に丁寧な研磨。	SX280 中層	『2012』 p. 159 図126-526	7
33	敲石	20.2	13.1	7.5	2,848.7	—	砂岩, 大形円礫の端部に敲打痕, 表裏面に磨面。	SB1	『2012』 p. 31 図18-36	8
34	敲石	9.1	7.3	3.6	377.3	—	花崗岩, 板状円礫の先端・表裏面中央に敲打痕。	SB1	『2012』 p. 31 図18-37	8
35	敲石	14.5	10.2	5.1	1,090.6	—	砂岩, 片端部に複数の剥離による刃部, 片端部に敲打痕, 両端ともに使用, 片面に敲打痕。	SB119	『2012』 p. 47 図34-110	8
36	敲石	8.8	7.0	5.2	400.7	—	砂岩, 円礫の側面に敲打痕。	SB120	『2012』 p. 50 図37-123	8
37	敲石	9.5	8.0	5.4	588.4	—	流紋岩, 円礫の側面に敲打痕。	SB472	『2012』 p. 86 図69-265	8
38	敲石	(5.7)	3.8	4.2	130.8	—	先端部残欠, 花崗岩, 棒状礫の先端に敲打痕, 敲打痕にタール状付着物。	SB1004 下層	『2012』 p. 102 図83-316	8
39	敲石	11.2	9.2	5.7	860.7	—	安山岩, 側面に敲打痕, 表面は顕著な磨面。	SB1004 下層	『2012』 p. 102 図83-317	8
40	敲石	10.0	8.6	5.7	682.0	—	砂岩, 片側面に敲打痕が集中する。片面に磨面及び敲打痕 (磨面の縁辺に帯状の黒色付着物)。	SF278	『2012』 p. 109 図92-342	8
41	敲石	15.7	5.6	3.2	402.4	—	砂岩, 円礫の片端部に敲打痕, 裏面は節理面 (剥離あり)。	SK402	『2012』 p. 123 図101-389	8
42	敲石	14.8	5.5	3.5	430.6	—	砂岩, 円礫の両端部に剥離による刃部, 片側面に敲打痕。	SK675	『2012』 p. 127 図105-406	8
43	敲石	(6.3)	4.7	3.0	114.6	—	砂岩, 棒状円礫の先端に敲打痕, 敲打痕付近に衝撃剥離か。	SX471 下層	『2012』 p. 164 図131-573	8
44	敲石	11.7	4.5	3.2	230.3	—	流紋岩, 木杓カサ状の円礫の両端部に敲打痕, 両端部に衝撃剥離痕か, 身部中央に敲打痕か。	SB1	『2012』 p. 31 図18-38	8
45	敲石	8.8	6.2	4.7	294.4	—	輝緑凝灰岩, 歪角礫の端部に潰れ痕と剥離痕。	SK347	『2012』 p. 146 図114-440	8
46	砥石	12.5	8.2	4.5	621.9	—	砂岩, 手持ち砥石, 片面の一部に砥面。	SB1004	『2012』 p. 102 図83-319	8
47	砥石	(11.6)	(11.5)	3.8	574.0	—	砂岩, 手持ち砥石, 一部欠損, 被熱痕跡あり。	SK361	『2012』 p. 123 図101-386	8
48	砥石	12.6	7.6	3.9	540.0	—	砂岩, 手持ち砥石, 表裏面にわずかな砥面。	SX280	『2012』 p. 158 図125-531	8
49	砥石	11.0	7.2	4.5	509.3	—	砂岩, 手持ち砥石, 片面に顕著な砥面, 片面にわずかな砥面。	SB2	『2012』 p. 32 図19-47	8
50	砥石	21.2	15.5	6.3	3,136.4	—	砂岩, 据置砥石か, 表裏面に砥面, 片面は丸み・片面は平坦。	SB1	『2012』 p. 31 図18-35	8
51	砥石	26.0	21.3	6.5	4,735.8	—	砂岩, 据置砥石, 表裏面に砥面, 4ヶ所に剥離。	SK664	『2012』 p. 127 図105-402	8

第4表 塩屋金清神社遺跡出土縄文土器等一覧表(1)

番号	種別 器種	法量 (cm)				遺存率 (%)	品質形状等	出土 地点	報告書 掲載番号	図版 No.
		口径	器高	底径	最大幅					
52	縄文土器 深鉢	[17.0]	(17.0)	—	[18.0]	40	深鉢形、口縁部から胴部残欠、胴部は丸く膨らみ頸部がくびれ口縁部にかけて外反する器形、口縁部は無文、内面に横位1条の沈線、頸部に横位の2条一体の平行沈線、沈線間に縄文を充填、胴部は縦位に区画する沈線および弧状の沈線、沈線間に充填縄文、外面に煤及び炭化物付着、後期前葉（気屋式）、多数片接合。	遺物包含層	『2000』p. 32 図18-1	10
53	縄文土器 深鉢	[48.4]	63.0	12.4	48.4	80	深鉢形、口縁部から底部一部欠損、底部から胴部にかけて大きく開き頸部はわずかにくびれ口縁部が開く器形、4単位の波状口縁、口唇部に縄文、波頂部に渦巻文、口縁部から頸部にかけて多段平行の横位沈線、口縁部から頸部の地文縄文は細く胴部の縄文は太い、底面に網代、後期前葉（気屋式）在地系、多数片接合、多数片別置。	遺物包含層	『2000』p. 22 図9-1	11
54	縄文土器 深鉢	33.0	(26.0)	—	33.0	30	深鉢形、口縁部から胴部の残欠、胴部が膨らみ頸部がくびれ口縁部が外反する器形、4単位の波状口縁、口唇部・口縁部内面に縄文、波頂部に渦巻文、口縁部から頸部にかけて沈線による横位・クランク状・三角形などの文様、口縁部から頸部の充填縄文は細く胴部の縄文は太い、後期前葉（気屋式）在地系、多数片接合、多分割を一体に復元。	遺物包含層	『2000』p. 24 図11-2	10
55	縄文土器 深鉢	[32.1]	(24.0)	—	[32.1]	20	深鉢形、口縁部から胴部残欠、頸部がわずかにくびれ口縁部が開く器形、波状口縁、口縁部から頸部にかけて横位沈線による意匠文、器面全面に縄文、胴部に穿孔1、後期前葉（気屋式）在地系、多数片接合（器形復元）。	遺物包含層	—	10
56	縄文土器 深鉢	[25.1]	(19.4)	—	[25.1]	30	深鉢形、口縁部から胴部残欠、胴部が膨らみ頸部がくびれ口縁部が外反する器形、4単位の波状口縁（2欠損）、波頂部に刺突・二重弧線、口縁部の波頂部から頸部にかけて4列の刺突列が垂下（4単位）、頸部には沈線で細長い方形区画文、胴部に縄文、後期前葉（気屋式）在地系、多数片接合。	遺物包含層	『2000』p. 29 図16-2	10
57	縄文土器 深鉢	—	(21.5)	[8.6]	(22.9)	30	深鉢形、胴部から底部残欠、上端に横位沈線、胴部全面に縄文、後期前葉（気屋式）在地系、多数片接合。	遺物包含層	—	12
58	縄文土器 深鉢	12.5	13.5	6.5	—	80	深鉢形、口縁部から胴部一部欠損、胴部は丸く膨らみ頸部はくびれ口縁部にかけて外反する器形、3単位の波状口縁、波頂部は二山、内面押捺により外面に凸瘤文を施す、口唇部に縄文、口縁部無文、頸部に3条一体の横位沈線、胴部は3条一体の沈線で縦位に区画、その間に3条一体の蛇行沈線・2重弧線、頸部・胴部には沈線間に充填縄文、一部櫛歯状工具による沈線、後期前葉（気屋式）在地系、多数片接合。	遺物包含層	『2000』p. 32 図18-4	10
59	縄文土器 深鉢	[19.5]	[19.0]	10.0	19.5	50	深鉢形、口縁部から底部残欠、胴部が丸く膨らみ頸部がくびれ口縁部にかけて外反する器形、波状口縁（波頂部欠損）、口唇部・口縁部に縄文、頸部に横位の平行沈線、胴部は地文縄文・縦位に区画する沈線及び蛇行する沈線、底面に網代、後期前葉（気屋式）、多数片接合。	遺物包含層	『2000』p. 32 図18-3	10
60	縄文土器 浅鉢	14.0	20.1	[9.3]	14.5	50	深鉢形、口縁部から底部一部欠損、胴部が丸く膨らみ頸部がくびれ口縁部にかけて外反する器形、平口縁、口縁部から頸部にかけて無文、胴部に横位の平行沈線・斜位に区画する沈線、沈線間に縄文を充填、底面に網代、外面煤付着、後期前葉（気屋式）、多数片接合。	遺物包含層	『2000』p. 32 図18-2	11
61	縄文土器 浅鉢	[13.8]	(17.1)	—	[14.7]	20	深鉢形、口縁部から胴部残欠、胴部が丸く膨らみ頸部で括れたあと口縁部が大きく外反する器形、平口縁、口唇部に縄文、器面全面に縄文、気屋式期併行の粗製土器、8片接合。	遺物包含層	『2000』p. 33 図19-2	12
62	縄文土器 深鉢	14.5	(25.0)	[9.0]	18.4	40	深鉢形、口縁部から胴部の残欠、胴部が丸く膨らみ頸部がくびれて外反し口縁部は「く」字状に強く内側に折れ曲がる器形、波状口縁、波頂部には縦位の隆帯、口縁部は横位沈線、頸部から胴部にかけて縄文、後期前葉（堀之内2式）在地系、多数片接合。	遺物包含層	『2000』p. 33 図19-8	11
63	縄文土器 深鉢	18.1	32.5	8.4	27.5	60	深鉢形、口縁部から底部一部欠損、胴部が丸く膨らみ頸部がくびれて外反し口縁部は「く」字上に強く内側に折れ曲がる器形、4単位の波状口縁、口縁部にS字状渦巻文・横位及び弧状（刺突あり）の隆帯、頸部に波頂部下から垂下する隆帯と横位の隆帯に8の字状隆帯、胴部は縄文、後期前葉（堀之内2式）在地系、多数片接合。	遺物包含層	『2000』p. 34 図20-1	11

第5表 塩屋金清神社遺跡出土縄文土器等一覧表(2)

番号	種別 器種	量法 (cm)				遺存率 (%)	品質形状等	出土 地点	報告書 掲載番号	図版 No.
		口径	器高	底径	最大幅					
64	縄文土器 深鉢	[18.2]	33.5	10.1	24.5	60	深鉢形, 口縁部から底部一部欠損, 胴部が丸く膨らみ頸部がくびれて外反し口縁部は「く」字上に強く内側に折れ曲がる器形, 4単位の波状口縁(うち2波頂部欠損), 口縁部は連続する縦位沈線・横位沈線・弧状沈線・刻み貼付, 頸部は下端を隆線および4単位の8の字貼付で区画, そこから続く縦位の隆線を施す, 胴部は縄文, 底面に網代圧痕, 内外面に炭化物附着, 後期前葉(堀之内2式)在地系, 多数片接合, 多数片別置。	遺物包含層	『2000』p.34 図20-10	11
65	縄文土器 深鉢	25.0	(21.5)	—	27.0	60	深鉢形, 口縁部から胴部一部・胴下半部から底部欠損, 胴部はゆるく膨らみ頸部はわずかにくびれ口縁部は外反する器形, 4単位の波状口縁, 口唇部は内側に突き出し縄文・沈線・凹線・8の字状隆帯を施文, 口縁部下位に隆帯及び横走・蛇行・垂下する隆帯, 頸部に縦位の隆帯および加飾隆帯, 胴上部に3条の蛇行する隆帯及び縦位の加飾隆帯, 胴下部は縦走縄文, 後期前葉(堀之内2式)在地系, 多数片接合。	遺物包含層	『2000』p.36 図22-2	11
66	縄文土器 深鉢	23.0	(17.6)	(8.8)	26.0	40	深鉢形, 口縁部全欠・頸部から底部広く欠損, 底部から大きく開いて胴上部で丸く膨らみ頸部はくびれる器形, 頸部は無文, 頸部下位に加飾隆線・8の字状隆帯, 胴部は縦位の沈線を基調とした意匠文・入組文, 沈線間に充填縄文, 底面に網代圧痕, 後期前葉(堀之内2式)在地系, 多数片接合。	遺物包含層	『2000』p.37 図23-1	12
67	縄文土器 深鉢	25.2	(12.5)	—	25.2	30	深鉢形, 口縁部から胴部欠損, 頸部は深くくびれ口縁部が大きく開く器形, 平口縁, 頸部に横位の平行沈線, 口縁部無文, 一部に赤彩痕, 後期前葉(堀之内2式)在地系, 多数片接合。	A地点	—	12
68	縄文土器 鉢	15.1	7.0	[6.8]	—	80	鉢形, 口縁部から底部一部欠損, 底部から口縁部までゆるく開く器形, 口唇部に連続する刻み, 口縁部内面に地文条線・沈線がめぐる, 口縁部から胴部にかけて沈線による意匠文, 一部沈線間に斜位の条線を充填, 後期前葉(堀之内2式)在地系, 多数片接合。	遺物包含層	『2000』p.37 図23-2	12
69	縄文土器 深鉢	[16.2]	[13.2]	7.4	[16.2]	30	深鉢形, 口縁部から底部欠損, 平口縁, 底部から口縁部にかけて直線的に開く, 無文, 底面に網代, 堀之内2式期の器形に似る, 6片を一体で器形復元。	遺物包含層	—	12
70	縄文土器 注口土器	5.5	18.1	[7.4]	[21.5]	80	注口土器, 突起・口縁部・胴部から底部一部および注口部欠損, 底部はわずかに高台状, 胴部が膨らみ, 頸部がわずかにくびれ, 口縁部は直立に立ち上がる器形, 口唇部に1条の沈線, 渦巻文を施す2単位の円形突起(うち1残存)から続く橋状把手が胴部にかけて貼付, 口縁部から胴上部にかけて沈線・半隆線による弧線文・渦巻文・円文・楕円文・三角文。胴下半部は無文, 底面に網代圧痕, 後期前葉(堀之内2式)在地系。多数片接合。	遺物包含層	『2000』p.37 図23-12	12
71	縄文土器 注口土器	(8.5)	13.2	6.7	18.8	90	注口土器, 口縁部・注口部わずかに欠損, 胴部が丸く膨らみ頸部がくびれ口縁部にかけて直立し端部が外反・注口部が上方にせり上がる器形, 平口縁, 口縁部は無文, 胴部にかけて橋状把手(橋状把手には斜行する沈線および渦巻文, 逆側欠損), 頸部に4条一体の沈線, 胴部は渦巻文及び弧線文, 底面に網代圧痕, 内底面に黒色物附着(漆か), 後期前葉(堀之内2式)在地系, 2片接合。	遺物包含層	『2000』p.37 図23-11	12
72	縄文土器 土偶カ	—	長 (6.3)	厚 (5.5)	幅 (7.5)	—	土偶か, 中空, 隆帯と沈線で仮面状の顔面を表現する, 両耳・鼻・口部に孔各1, 眉から鼻部は隆帯, 沈線により眉の下部に眼部, 顔面部の頂部は三角状, 頭部はソロバン玉状の痕跡, 首はくびれる, 数片接合。	A地点	『2000』p.48 図31-10	12
73	縄文土器 深鉢	[22.5] ×21.6	26.5	6.5	[27.0]	70	深鉢形, 口縁部から底部一部欠損, 底部から大きく開いて胴部がやや膨らみ, 頸部がわずかにくびれる(口縁部がわずかに内傾する器形), 3単位の円形突起を持つ波状口縁(うち1残存), 上面縦隅丸三角形, 口縁部は無文・沈線・稜状の縄文, 頸部は無文, 下端を2条平行沈線で区画, 胴上部は縄文, 胴下部は無文, 底面に木葉痕か, 後期中葉(元住吉山I式), 多数片接合。	遺物包含層	『2000』p.42 図26-19	11
74	縄文土器 深鉢	[16.7]	13.9	4.0	[16.7]	20	深鉢形, 口縁部から底部欠損, 胴下半部に稜を持つくびれ口縁部にかけて開き, 口縁端部がゆるく内湾する器形, 口縁部に刻み, 無文, 底面に木葉痕, 稜を持つ器形は後期中葉の時期に近似する, 5片接合及び4片未接合を一体で器形復元, 1片別置。	遺物包含層	—	12

第6表 塩屋金清神社遺跡出土縄文土器等一覧表(3)

番号	種別 器種	法量 (cm)				遺存率 (%)	品質形状等	出土 地点	報告書 掲載番号	図版 No.
		口径	器高	底径	最大幅					
75	縄文土器 深鉢	14.4	(8.2)	—	14.4	40	深鉢形、口縁部から胴部残欠、平口縁、頸部に稜を有する、口縁部と頸部の稜に縄文、外面炭化物付着、後期中葉(酒見式期)在地系、多数片接合。	遺物包含層	『2000』p.56 図37-3	12
76	縄文土器 鉢	[14.7]	[9.9]	[8.9]	[14.7]	15	鉢形、底部外側が張り口縁部にかけて開く器形、平口縁、無文、底面に網代、器形より堀之内2式期から加曾利B1式期併行の粗製土器か、2片未接合を一体で器形復元。	A地点	—	12
77	縄文土器 小形深鉢	11.2	13.9	5.9	—	70	小形深鉢、口縁部から底部一部欠損、底部付近でゆるくくびれ口縁部にかけて開く器形、平口縁、口唇部に刻み、口縁部から胴上半部にかけて2条1帯の平行沈線を3段施文する(2条間には連続刺突文)、口縁部内面に沈線、補修孔あり、後期中葉在地系、多数片接合。	遺物包含層	『2000』p.40 図24-14	13
78	縄文土器 小形深鉢	[11.0]	12.7	5.8	—	40	小形深鉢、口縁部から胴部広く欠損、底部から頸部にかけて直線的に立ち上がり口縁部までゆるく外反する器形、平口縁、口唇部に刻み、内面に段を持つ、口縁部は無文、胴上部は横走する斜行沈線を上下に配置し間に横位の浅い沈線、胴下半部は無文、底面に網代圧痕、後期中葉在地系、多数片接合。	遺物包含層	『2000』p.40 図24-13	13
79	縄文土器 小形深鉢	9.0	11.0	5.6	—	95	小形深鉢、口唇部小欠(意図的な片口部作出の可能性あり)、底部はやや外に張り出し口縁部まで緩く立ち上がる器形、平口縁、口唇部に刻み、口縁部から胴部にかけて無文、底面に網代圧痕、外面に煤付着・黒色物吸着、後期中葉在地系。	遺物包含層	『2000』p.57 図38-9	13
80	縄文土器 異形土器	—	高 (10.3)	厚 (10.9)	幅 (11.3)	—	異形土器、下半部欠損、横位片側が開口しもう一方には沈線による渦巻文が施された凸部、側面に一對の橋状把手、頂部に渦巻文を施したつまみ状の突起、多数片接合。	A地点	『2000』p.48 図31-11	13
81	縄文土器 土偶	—	長 (9.2)	厚 (3.6)	幅 (4.5)	—	土偶、右脚部、内側面を除いた3面に縄文と蛇行する沈線で施文、郷原型の系統。	A地点	『2000』p.64 図42-9	13
82	縄文土器 深鉢	31.4	34.7	[6.7]	32.5	60	深鉢形、口縁部から底部一部欠損、胴部から頸部にかけて開く器形、平口縁、口縁部に3条の沈線、口縁部に横位2条の沈線、器面全面に縄文、井口式期から八日市新保式期併行の粗製土器、多数片接合。	遺物包含層	『2000』p.53 図34-2	11
83	縄文土器 深鉢	20.0	20.1	6.0	—	60	深鉢形、口縁部から底部一部欠損、底部から口縁部にかけて開く器形、平口縁、口縁部に3条の沈線、地文縄文、底面に不明な圧痕、後期中葉から後葉在地系、多数片接合。	遺物包含層	『2000』p.52 図34-1	13
84	縄文土器 深鉢	17.1	(11.8)	—	17.3	30	深鉢形、口縁部から底部残欠、胴部は開き口縁部がわずかに内傾する器形、平口縁、口縁部に横位3条の沈線、口縁部の縄文は斜位、胴部の縄文は縦位、井口式期から八日市新保式期併行の粗製土器、多数片接合。	遺物包含層	『2000』p.53 図34-3	13
85	縄文土器 深鉢	[16.5]	15.5	6.5	[16.5]	40	深鉢形、口縁部から底部残欠、胴部から口縁部にかけて開く器形、平口縁、無文、底面に網代か、外面に炭化物付着、器形から井口式期から八日市新保式期併行の粗製土器か、7片接合及び3片接合を一体で器形復元。	A地点	—	13
86	縄文土器 深鉢	30.5	27.4	[7.5]	—	50	深鉢形、口縁部から底部広く欠損、底部から胴部にかけて大きく開き胴上半部でくびれ口縁部はわずかに外反する器形、口縁部は4単位のやや尖る波状口縁、口縁部下位に屈曲、波頂部には三叉文、口縁部から胴部にかけて3条一体の沈線(3条一体の沈線文は各所を×状印刻で区切る)、胴下半部に縄文、後期後葉(八日市新保式)在地系、多数片接合。	遺物包含層	『2000』p.54 図35-1	11
87	縄文土器 浅鉢	[22.5]	10.8	6.1	—	40	浅鉢形、口縁部から底部残欠、4単位のなだらかな波状口縁(うち1残存)、口縁部には横長の区画文および平行沈線、口縁部下位に加飾隆線、沈線に赤彩痕、胴下半部から底部にかけて炭の吸着により黒色化、後期後葉在地系、8片接合。	遺物包含層	『2000』p.58 図39-7	13
88	縄文土器 浅鉢	[14.6]	9.2	4.6	—	40	浅鉢形、口縁部から底部残欠、4単位の山形突起(うち1残存)、横位の平行沈線及び隆帯、縦位の短沈線、後期後葉在地系、多数片接合。	遺物包含層	『2000』p.59 図40-3	13
89	縄文土器 深鉢	[14.1]	[16.3]	6.1	[14.1]	20	深鉢形、口縁部から底部残欠、胴部が丸く膨らみ頸部で括れたあと口縁部が大きく外反する器形と推定、鋸歯状口縁、口縁部内面に沈線による弧線・回線、無文、底面に網代、御経塚式期併行、6片接合及び3片未接合を一体で器形復元。	遺物包含層	—	13
90	縄文土器 浅鉢	[27.3]	11.0	—	[31.5]	50	浅鉢形、口縁部から底部一部欠損、8単位の波状口縁(うち2残存)、三叉文・玉抱三叉文及び沈線による意匠文、外面黒色物吸着、晩期前葉在地系、多数片接合。	遺物包含層	『2000』p.60 図41-1	13

第7表 塩屋金清神社遺跡出土石製品等一覧表(1)

番号	種類	法量 (cm)				遺存率 (%)	品質形状等	出土地点	報告書掲載番号	図版 No.
		長	幅	厚	重量 (g)					
91	石棒原石	23.5	7.3	8.2	2,043.3	—	塩屋石, 柱状節理。	C7グリッド II C層	—	14
92	石棒原石	26.8	5.8	7.0	1,692.7	—	塩屋石, 柱状節理。	F6グリッド II C	—	14
93	石棒原石	27.5	8.5	7.1	2,147.9	—	塩屋石, 柱状節理。	C7グリッド II 層	—	14
94	石棒原石	31.5	8.1	6.5	2,215.5	—	塩屋石, 柱状節理。	B11グリッド	—	14
95	石棒原石	26.5	9.8	8.8	3,723.4	—	塩屋石, 柱状節理。	C14・G11グリッド	—	14
96	石棒剥離段階	19.4	9.0	6.9	1,364.6	—	I群F類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 礫面あり。	D5グリッド II C層	『2000』 p. 169 図61-1	14
97	石棒剥離段階	22.2	10.4	7.3	2,251.0	—	I群F類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 礫面あり。	C6グリッド II C	『2000』 p. 169 図61-2	14
98	石棒剥離段階	35.5	11.5	5.7	2,943.7	—	I群F類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 礫面あり。	C3グリッド I 層	『2000』 p. 169 図61-3	14
99	石棒剥離段階	15.2	7.5	6.2	822.2	—	I群F類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 端部に敲打痕あり, 礫面あり。	J7グリッド II C層	『2000』 p. 169 図61-4	14
100	石棒剥離段階	25.4	9.5	7.7	2,252.1	—	I群F類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 礫面あり。	D5グリッド II 層	『2000』 p. 169 図61-5	14
101	石棒剥離段階	17.8	6.9	8.6	1,233.0	—	I群F類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 端部に敲打痕あり, 礫面あり。	F7グリッド II C層	『2000』 p. 170 図62-1	14
102	石棒剥離段階	21.7	8.6	7.0	2,099.9	—	I群F類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 礫面あり。	S9グリッド II 層	『2000』 p. 170 図62-2	14
103	石棒剥離段階	28.2	12.6	9.2	3,587.2	—	I群F類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 稜線部分をうち剥がす, 礫面あり。	F7グリッド II 層	『2000』 p. 170 図62-3	14
104	石棒剥離段階	14.6	9.1	7.7	1,307.3	—	I群F類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 礫面あり。	D6グリッド	『2000』 p. 170 図62-4	14
105	石棒剥離段階	24.0	11.4	7.8	3,029.3	—	I群F類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 凹み痕あり, 礫面あり。	D5グリッド II C層	『2000』 p. 170 図62-5	14
106	石棒剥離段階	14.8	9.0	7.5	1,080.1	—	I群F類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 礫面あり。	E5グリッド II 層	『2000』 p. 171 図63-1	14
107	石棒剥離段階	21.8	9.4	7.0	2,140.6	—	I群F類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 礫面あり。	E5グリッド II 層	『2000』 p. 171 図63-2	14
108	石棒剥離段階	27.8	9.5	7.8	2,334.1	—	I群F類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 端部に敲打痕あり, 礫面あり。	E6グリッド II C層	『2000』 p. 171 図63-3	15
109	石棒剥離段階	16.4	8.6	6.1	1,160.1	—	I群F類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 礫面あり。	C6グリッド II C層	『2000』 p. 171 図63-4	15
110	石棒剥離段階	23.7	6.8	6.4	1,516.1	—	I群F類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, くびれと想定される深い剥離痕あり, 礫面あり。	D6グリッド II C層	『2000』 p. 171 図63-5	15
111	石棒剥離段階	18.1	8.5	9.5	1,568.4	—	I群F類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 礫面あり。	C7グリッド II C層	『2000』 p. 172 図64-1	15
112	石棒剥離段階	21.5	7.5	5.0	1,187.7	—	I群F類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階か, 剥離痕を有する, 端部に敲打痕あり, 礫面あり。	F6グリッド II C層	『2000』 p. 172 図64-2	15
113	石棒剥離段階	32.2	10.1	9.0	3,136.4	—	I群F類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 礫面あり, 自然剥離面あり。	A地点	『2000』 p. 172 図64-3	15
114	石棒剥離段階	19.9	6.6	3.4	722.2	—	I群F類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 礫面あり。	E6グリッド II C層	『2000』 p. 172 図64-4	15
115	石棒剥離段階	23.6	10.0	8.3	2,669.9	—	I群F類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 礫面あり。	D5グリッド II 層	『2000』 p. 172 図64-5	15
116	石棒剥離段階	36.1	6.5	5.5	1,661.9	—	I群F類。両端部遺存, 塩屋石, 未成品か(石刀の未成品か), 剥離段階, 剥離痕を有する, 礫面あり。	D5グリッド II C層	『2000』 p. 173 図65-1	15
117	石棒剥離段階	29.4	7.0	6.0	1,558.8	—	I群F類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 端部あり, 礫面あり。	E5グリッド II C層	『2000』 p. 173 図65-2	15
118	石棒剥離段階	35.0	7.6	4.7	1,957.3	—	I群F類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 剥離痕を有する, 稜線をうち剥がす段階, 礫面あり。	D5グリッド II C層	『2000』 p. 173 図65-3	15
119	石棒剥離段階	25.8	7.8	8.0	2,358.5	—	I群F類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 稜線への剥離痕を有する, 礫面あり, 原石の形状をよく留める。	F7グリッド II 層	『2000』 p. 173 図65-4	15
120	石棒剥離段階	26.4	9.8	7.5	1,980.2	—	I群F類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 端部と稜線に剥離痕を有する, 礫面あり, 原石の形状をよく留める。	R11グリッド	『2000』 p. 174 図66-1	15
121	石棒剥離段階	25.1	9.0	7.0	2,178.7	—	I群F類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 稜線に剥離痕を有する, 礫面あり, 原石の形状をよく留める。	A地点	『2000』 p. 174 図66-2	15
122	石棒剥離段階	25.4	9.5	8.0	2,447.1	—	I群F類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離段階, 端部に敲打痕あり, 礫面あり。	C9グリッド	『2000』 p. 174 図66-3	15
123	石棒敲打段階	12.5	9.8	5.5	1,011.6	—	I群FP類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品か, 剥離・敲打痕を有する, 石棒の有頭部ないしその他石製品の未成品か, 礫面あり。	G8グリッド II 層	『2000』 p. 174 図66-4	16

第8表 塩屋金清神社遺跡出土石製品等一覧表(2)

番号	種類	法量 (cm)				遺存率 (%)	品質形状等	出土地点	報告書掲載番号	図版 No.
		長	幅	厚	重量 (g)					
124	石棒 敲打段階	12.2	7.0	6.7	703.1	—	I 群FP類。両端部欠損、塩屋石、未成品、剥離段階、剥離痕（一部敲打痕）を有する、礫面あり、原石の形状をよく留める。	F6グリッド	『2000』p.174 図66-5	16
125	石棒 敲打段階	12.5	9.5	7.0	1,076.6	—	I 群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、敲打段階、一部剥離痕を残す、礫面あり。	C7グリッド II層	『2000』p.174 図66-6	16
126	石棒 敲打段階	13.5	8.0	6.5	999.5	—	I 群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、敲打にて稜を潰す、剥離痕希薄、礫面あり。	D11グリッド	『2000』p.175 図67-1	16
127	石棒 敲打段階	20.5	8.5	8.0	2,137.4	—	I 群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	K6グリッド II層	『2000』p.175 図67-2	16
128	石棒 敲打段階	29.0	12.4	11.5	5,343.3	—	I 群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり、極めて大型（中期か）。	D7グリッド II層	『2000』p.175 図67-3	16
129	石棒 敲打段階	20.1	7.0	4.8	958.7	—	I 群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、推定くびれ部に深い剥離か、礫面あり。	E4グリッド II層	『2000』p.175 図67-4	16
130	石棒 敲打段階	16.5	8.0	6.5	1,137.7	—	I 群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	A地点	『2000』p.175 図67-5	16
131	石棒 敲打段階	14.5	8.0	7.8	1,410.4	—	I 群FP類。両端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	A地点	『2000』p.176 図68-1	16
132	石棒 敲打段階	34.2	6.5	7.2	2,360.7	—	I 群FP類。両端部遺存、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	C5グリッド II層	『2000』p.176 図68-2	16
133	石棒 敲打段階	14.9	7.8	6.0	956.2	—	I 群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	C8グリッド II層	『2000』p.176 図68-3	16
134	石棒 敲打段階	22.3	6.0	5.0	1,243.2	—	I 群FP類。両端部遺存、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	D5グリッド II層	『2000』p.176 図68-4	16
135	石棒 敲打段階	20.0	7.3	6.0	1,164.2	—	I 群FP類。両端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	F5グリッド II層	『2000』p.176 図68-5	16
136	石棒 敲打段階	12.4	6.5	5.4	621.2	—	I 群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	G4グリッド II層	『2000』p.176 図68-6	16
137	石棒 敲打段階	14.3	5.8	5.5	648.0	—	I 群FP類。両端部欠損、塩屋石、未成品、敲打段階、凹み痕あり、礫面あり。	E6グリッド II層	『2000』p.176 図68-7	16
138	石棒 研磨段階	19.0	7.5	5.0	956.7	—	I 群FPG類。両端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打・研磨痕を有する、側面に凹み痕か、礫面ごくわずかに残存。	D5グリッド II層	『2000』p.177 図69-1	16
139	石棒 研磨段階	15.9	5.2	4.0	511.6	—	I 群FPG類。片端部欠損、塩屋石、未成品、敲打・研磨痕を有する（剥離痕は不明瞭）、背面に凹み痕か、礫面あり。	D8グリッド II層	『2000』p.177 図69-2	16
140	石棒 研磨段階	12.3	5.5	4.5	405.9	—	I 群FPG類。両端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打・研磨痕を有する、正面と側面に凹み痕あり、礫面わずかに残存。	K9グリッド	『2000』p.177 図69-3	16
141	石棒 研磨段階	16.1	6.9	5.2	752.7	—	I 群PG類。片端部欠損、塩屋石、未成品、敲打・研磨痕を有する、礫面あり。	E5グリッド II層	『2000』p.177 図69-4	16
142	石棒 研磨段階	19.0	6.5	6.0	855.0	—	I 群PG類。片端部欠損、塩屋石、未成品、敲打・研磨痕を有する、端部に欠損時の剥離痕、礫面あり。	E7グリッド II層	『2000』p.177 図69-5	16
143	石棒 研磨段階	16.9	5.7	4.3	617.6	—	I 群PG類。両端部遺存、塩屋石、未成品、敲打・研磨痕を有する（わずかに剥離痕あり）、礫面あり。	C15グリッド	『2000』p.177 図69-6	16
144	石棒 研磨段階	7.5	2.8	2.1	60.3	—	I 群G類。両端部欠損、塩屋石、未成品、研磨段階。	G11グリッド II層	『2000』p.177 図69-7	16
145	石棒 研磨段階	8.5	2.7	2.5	71.5	—	I 群G類。両端部欠損、塩屋石、未成品、研磨段階。	D14グリッド II層	『2000』p.177 図69-8	16
146	石棒 研磨段階	7.5	3.5	2.7	99.4	—	I 群G類。片端部欠損、塩屋石、未成品、研磨段階。	E6グリッド II層	『2000』p.177 図69-9	16
147	石棒 研磨段階	14.7	2.8	2.5	137.7	—	I 群G類。両端部欠損、塩屋石、未成品、研磨段階。	L8グリッド II層	『2000』p.177 図69-10	16
148	石棒 研磨段階	7.3	2.7	2.5	73.4	—	I 群G類。両端部欠損、塩屋石、未成品、研磨段階。	J8グリッド II層	『2000』p.177 図69-11	16
149	石棒 研磨段階	7.4	3.0	2.5	73.0	—	I 群G類。両端部欠損、塩屋石、未成品、研磨段階。	D7グリッド II層	-	16
150	石棒 研磨段階	9.4	3.4	2.5	124.3	—	I 群G類。片端部欠損、塩屋石、未成品、敲打・研磨痕を有する、礫面あり。	C7グリッド II層	『2000』p.177 図69-13	16
151	石棒 研磨段階	5.6	3.1	2.3	60.5	—	I 群G類。片端部欠損、塩屋石、未成品、研磨段階。	K9グリッド II層	『2000』p.177 図69-14	16
152	石棒 剥離段階	26.9	6.8	7.0	1,842.0	—	II 群F類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離段階、主に稜線への剥離痕を有する、端部に敲打痕あり、片端部に衝撃剥離痕か、礫面あり。	F5グリッド II層	『2000』p.178 図70-1	17
153	石棒 敲打段階	16.7	6.7	6.3	791.4	—	II 群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する（一部に研磨痕か）。	A地点	『2000』p.178 図70-2	17
154	石棒 敲打段階	14.9	8.1	4.3	802.7	—	II 群FP類。両端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、凹み痕およびその周囲に擦り痕あり、礫面あり。	E5グリッド II層	『2000』p.178 図70-3	17
155	石棒 敲打段階	14.8	8.3	4.5	695.6	—	II 群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	C7グリッド II層	『2000』p.178 図70-4	17

第9表 塩屋金清神社遺跡出土石製品等一覧表(3)

番号	種類	量法 (cm)				遺存率 (%)	品質形状等	出土地点	報告書掲載番号	図版 No.
		長	幅	厚	重量 (g)					
156	石棒 敲打段階	22.8	8.3	4.6	1,161.7	—	II群FP類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する, 礫面あり。	A地点	『2000』p.178 図70-5	17
157	石棒 敲打段階	24.3	10.2	8.0	2,516.9	—	II群FP類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打・研磨痕を有する(研磨は稜線潰しのためか), 頭部が作出されている, 礫面わずかに残存。	F5グリッド II層	『2000』p.178 図70-6	17
158	石棒 敲打段階	13.2	8.0	5.3	624.4	—	II群FP類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する, 礫面あり。	D6グリッド II層	『2000』p.179 図71-1	17
159	石棒 敲打段階	26.9	9.5	8.5	2,882.6	—	II群FP類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する, 礫面あり。	G4グリッド II層	『2000』p.179 図71-2	17
160	石棒 敲打段階	28.0	14.3	11.5	6,501.0	—	II群FP類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する, 礫面あり, 極めて大型(中期か)。	C7グリッド II層	『2000』p.179 図71-3	17
161	石棒 敲打段階	17.5	6.9	7.0	1,048.2	—	II群FP類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する, 礫面あり。	F7グリッド II層	『2000』p.179 図71-4	17
162	石棒 敲打段階	20.8	8.6	8.5	2,182.2	—	II群FP類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する, 礫面あり。	F4グリッド II層	『2000』p.179 図71-5	17
163	石棒 敲打段階	39.6	6.0	5.8	1,810.7	—	II群FP類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する, 基部の作出痕跡が顕著, 礫面あり。	C5グリッド 上層	『2000』p.180 図72-1	17
164	石棒 敲打段階	15.7	5.7	4.8	543.1	—	II群FP類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する, 礫面あり。	F5グリッド II層	『2000』p.180 図72-2	17
165	石棒 敲打段階	16.6	7.0	5.9	863.3	—	II群FP類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する, 片側に大きく形状を損なう欠損あり, 礫面あり。	B1グリッド	『2000』p.180 図72-3	17
166	石棒 敲打段階	29.5	6.7	4.8	1,501.0	—	II群FP類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する, 基部の作出痕跡が顕著, 礫面あり。	D5グリッド 中層	『2000』p.180 図72-4	17
167	石棒 敲打段階	24.5	6.8	6.0	1,418.7	—	II群FP類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する, 礫面あり。	B11グリッド II層	『2000』p.180 図72-5	17
168	石棒 敲打段階	24.9	7.0	4.5	1,222.8	—	II群FP類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する, 礫面あり。	G7グリッド II層	『2000』p.180 図72-6	17
169	石棒 敲打段階	13.8	6.2	6.5	666.9	—	II群FP類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する, 凹み痕あり, 礫面あり。	F4グリッド II層	『2000』p.180 図72-7	17
170	石棒 研磨段階	23.0	4.9	5.0	670.5	—	II群FPG類。両端部遺存, 塩屋石, 未成品, 敲打段階(剥離痕わずかに残存), わずかに研磨痕, 礫面あり, 2片接合。	E8グリッド II層	『2000』p.181 図73-1a, 1b (接合)	18
171	石棒 研磨段階	15.0	6.4	5.5	708.6	—	II群FPG類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する(研磨痕希薄), 礫面あり。	D6グリッド II層	『2000』p.181 図73-2	18
172	石棒 研磨段階	14.2	6.3	6.6	798.7	—	II群FPG類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する(研磨痕希薄), 礫面あり。	E7グリッド II層	『2000』p.181 図73-3	18
173	石棒 研磨段階	13.8	5.3	5.2	520.0	—	II群FPG類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打・研磨痕を有する, 礫面あり。	I6グリッド II層	『2000』p.181 図73-4	18
174	石棒 研磨段階	9.1	4.0	3.0	135.8	—	II群FPG類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打・研磨痕を有する, 礫面あり。	D4グリッド II層	『2000』p.181 図73-5	18
175	石棒 研磨段階	11.5	4.9	3.6	271.1	—	II群PG類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 敲打・研磨痕を有する, 頭部作出を意識した深い敲打痕あり。	D7グリッド II層	-	18
176	石棒 研磨段階	9.0	5.7	5.2	446.5	—	II群PG類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 敲打・研磨痕を有する, 礫面あり。	H12グリッド II層	『2000』p.181 図73-6	18
177	石棒 研磨段階	15.2	5.5	5.0	630.6	—	II群PG類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 敲打・研磨痕を有する, 礫面あり。	F4グリッド II層	『2000』p.181 図73-7	18
178	石棒 研磨段階	20.2	5.5	5.8	1,005.4	—	II群FG類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・研磨痕を有する, 礫面わずかに残存。	D6グリッド II層	『2000』p.181 図73-8	18
179	石棒 研磨段階	10.4	5.9	5.2	380.7	—	II群FG類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 敲打・研磨痕を有する(剥離痕希薄), 礫面わずかに残存。	F5グリッド II層	『2000』p.181 図73-9	18
180	石棒 研磨段階	8.7	3.1	2.4	87.2	—	II群G類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 研磨段階。	C6グリッド II層	『2000』p.182 図74-1	18
181	石棒 研磨段階	8.6	3.6	2.7	145.9	—	II群G類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 研磨段階。	S9グリッド II層	『2000』p.182 図74-2	18
182	石棒 研磨段階	10.9	4.5	2.6	176.5	—	II群G類。両端部欠損, 塩屋石, 未成品, 研磨段階。	M9グリッド II層	『2000』p.182 図74-3	18
183	石棒 研磨段階	11.3	3.2	2.5	115.3	—	II群G類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 研磨段階。	E10グリッド II層	『2000』p.182 図74-4	18
184	石棒 研磨段階	11.4	3.3	2.5	123.3	—	II群G類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 研磨段階。	D6グリッド II層	『2000』p.182 図74-5	18
185	石棒 研磨段階	10.4	5.8	4.5	425.9	—	II群G類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 研磨段階。	C7グリッド II層	『2000』p.182 図74-6	18
186	石棒 敲打段階	16.5	6.0	5.3	752.8	—	III群FP類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する, 礫面わずかに残存。	D6グリッド II層	『2000』p.182 図74-7	18
187	石棒 敲打段階	16.8	6.2	5.0	657.6	—	III群FP類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する, 礫面あり。	U10グリッド II層	『2000』p.182 図74-8	18
188	石棒 敲打段階	18.8	7.4	6.3	1,317.8	—	III群FP類。片端部欠損, 塩屋石, 未成品, 剥離・敲打痕を有する, 礫面あり。	E8グリッド II層	『2000』p.182 図74-9	18

第10表 塩屋金清神社遺跡出土石製品等一覧表(4)

番号	種類	法量 (cm)				遺存率 (%)	品質形状等	出土地点	報告書掲載番号	図版 No.
		長	幅	厚	重量 (g)					
189	石棒 敲打段階	15.0	7.5	6.8	913.3	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	C8グリッド II層	『2000』p.182 図74-10	18
190	石棒 敲打段階	15.5	7.7	7.5	1,235.9	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	D6グリッド	『2000』p.182 図74-11	18
191	石棒 敲打段階	24.0	6.8	6.0	1,190.0	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	A地点	『2000』p.182 図74-12	18
192	石棒 敲打段階	26.2	6.0	4.8	1,177.8	—	Ⅲ群FP類。頭部から身部残欠、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、頭部の作出が明瞭、2片接合。	O11グリッド II層	『2000』p.183 図75-1	18
193	石棒 敲打段階	23.3	6.5	6.0	1,327.9	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	E3グリッド II層	『2000』p.183 図75-2	18
194	石棒 敲打段階	19.1	7.0	7.0	1,201.5	—	Ⅲ群FP類。両端部遺存、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面わずかに残存。	G4グリッド II層	『2000』p.183 図75-3	18
195	石棒 敲打段階	6.0	4.8	3.2	102.9	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、頭部の未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	C7グリッド II層	『2000』p.183 図75-4	18
196	石棒 敲打段階	14.6	5.0	4.8	493.8	—	Ⅲ群FP類。両端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	J10グリッド	『2000』p.183 図75-5	18
197	石棒 敲打段階	14.0	7.3	5.8	808.0	—	Ⅲ群FP類。両端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	C7グリッド II層	『2000』p.183 図75-6	18
198	石棒 敲打段階	20.1	6.2	5.5	851.4	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	I7グリッド II層	『2000』p.183 図75-7	19
199	石棒 敲打段階	30.8	7.5	6.5	2,351.1	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	D5グリッド II層	『2000』p.183 図75-8	19
200	石棒 敲打段階	19.0	6.1	5.2	812.1	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、裏面に凹み痕か、礫面あり。	C7グリッド II層	『2000』p.184 図76-1	19
201	石棒 敲打段階	16.9	7.0	5.8	1,009.2	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	I7グリッド II層	『2000』p.184 図76-2	19
202	石棒 敲打段階	18.7	6.4	5.5	908.2	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	D11グリッド	『2000』p.184 図76-3	19
203	石棒 敲打段階	22.7	6.2	6.0	1,018.0	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、頭部作出を意識か、礫面あり。	H6グリッド II層	『2000』p.184 図76-4	19
204	石棒 敲打段階	19.7	11.9	8.0	2,613.2	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり、極めて大型(中期か)。	F18グリッド	『2000』p.184 図76-5	19
205	石棒 敲打段階	11.5	6.1	5.0	431.1	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、上端乳頭状(天地逆か)、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する(剥離痕希薄)、礫面あり。	D5グリッド II層	『2000』p.184 図76-6	19
206	石棒 敲打段階	9.8	5.8	4.8	380.6	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、上端頭部作出、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する(剥離痕希薄)、礫面あり。	C6グリッド II層	『2000』p.184 図76-7	19
207	石棒 敲打段階	17.3	7.5	7.2	963.3	—	Ⅲ群FP類。両端部遺存、塩屋石、未成品(おいねずみ形石冠の未成品か)、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	E6グリッド II層	『2000』p.184 図76-8	19
208	石棒 敲打段階	6.7	7.8	7.6	465.2	—	Ⅲ群FP類。頭部残欠、塩屋石、未成品、敲打痕を有する、礫面わずかにあり。	C6グリッド II層	『2000』p.185 図77-1	19
209	石棒 敲打段階	7.2	6.2	4.8	281.2	—	Ⅲ群FP類。端部残欠、塩屋石、未成品、全面に敲打痕を有する。	D13グリッド II層	『2000』p.185 図77-2	19
210	石棒 敲打段階	12.7	6.8	5.6	668.5	—	Ⅲ群FP類。端部残欠、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、器面に溝状の凹みあり。	F6グリッド II層	『2000』p.185 図77-3	19
211	石棒 敲打段階	11.8	7.4	6.1	625.5	—	Ⅲ群FP類。頭部残欠、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する。	F3グリッド II層	『2000』p.185 図77-4	19
212	石棒 敲打段階	10.3	4.2	3.3	183.8	—	Ⅲ群FP類。端部残欠、塩屋石、未成品、全面に敲打痕を有する、礫面あり。	O7グリッド II層	『2000』p.185 図77-5	19
213	石棒 敲打段階	10.5	4.0	3.8	191.5	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、全面に敲打痕を有する、頭部作出を意識した敲打あり。	F7グリッド II層	『2000』p.185 図77-6	19
214	石棒 敲打段階	12.1	6.2	5.7	521.9	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、敲打痕を有する、頭部作出を意識した敲打か。	F7グリッド II層	『2000』p.185 図77-7	19
215	石棒 敲打段階	17.4	6.7	6.4	873.2	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、敲打痕を有する、端部に礫面あり。	R10グリッド II層	『2000』p.185 図77-8	19
216	石棒 敲打段階	16.6	6.3	4.9	613.0	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、敲打痕を有する。	F7グリッド II層	『2000』p.185 図77-9	19
217	石棒 敲打段階	15.7	6.4	5.0	712.8	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打痕を有する、礫面あり。	D6グリッド	『2000』p.185 図77-10	19
218	石棒 敲打段階	15.7	6.2	5.8	736.2	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、敲打痕を有する、礫面あり。	F4グリッド II層	『2000』p.185 図77-11	19
219	石棒 研磨段階	22.3	7.5	6.5	1,183.2	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打・研磨痕を有する(研磨痕希薄)、礫面あり。	G5グリッド II層	『2000』p.186 図78-1	19
220	石棒 研磨段階	18.4	6.8	7.3	1,270.7	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打・研磨痕を有する、礫面あり。	G5グリッド II層	『2000』p.186 図78-2	19
221	石棒 研磨段階	13.0	7.6	6.6	931.2	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打・研磨痕を有する。	H6グリッド II層	『2000』p.186 図78-3	19
222	石棒 研磨段階	11.3	6.7	5.6	557.7	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打・研磨痕を有する(研磨痕希薄)、礫面あり。	E8グリッド II層	『2000』p.186 図78-4	19
223	石棒 研磨段階	12.4	6.1	4.2	375.8	—	Ⅲ群FP類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・研磨痕を有する。	K7グリッド II層	『2000』p.186 図78-5	19

16 第2章 調査の成果

第11表 塩屋金清神社遺跡出土石製品等一覧表(5)

番号	種類	法量 (cm)				遺存率 (%)	品質形状等	出土地点	報告書掲載番号	図版 No.
		長	幅	厚	重量 (g)					
224	石棒 研磨段階	17.0	6.9	6.2	808.5	—	Ⅲ群PPG類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打・研磨痕を有する。	K7グリッド ⅡC層	『2000』p.186 図78-6	19
225	石棒 研磨段階	14.1	6.5	5.8	776.4	—	Ⅲ群PPG類。片端部欠損、塩屋石、未成品、敲打・研磨痕を有する、敲打によるくびれあり、礫面あり。	G3グリッド Ⅱ層	『2000』p.186 図78-7	19
226	石棒 研磨段階	13.9	6.0	5.4	555.1	—	Ⅲ群PPG類。両端部遺存、塩屋石、未成品、剥離・敲打・研磨痕を有する(研磨痕希薄)。	N8グリッド ⅡC層	『2000』p.186 図78-8	19
227	石棒 研磨段階	9.5	6.9	4.8	442.4	—	Ⅲ群PPG類。片端部欠損、塩屋石、未成品、剥離・敲打・研磨痕を有する、側面にわずかなくびれあり。	C7グリッド ⅡC層	『2000』p.186 図78-9	19
228	石棒	8.0	3.7	3.5	109.4	95	Ⅳa群。下端部小欠、成品、全面に研磨痕を有する、頭部に2条の沈線、端面に研磨痕、破損品の二次利用か。	A地点	『2000』p.187 図79-1	20
229	石棒	(6.9)	5.5	(4.0)	116.5	—	Ⅳa群。頭部残欠(半分欠損)、塩屋石、成品、研磨痕を有する、頭部に2条もしくは3条の沈線。	18グリッド ⅡC層	『2000』p.187 図79-2	20
230	石棒	(9.6)	4.2	2.8	122.4	—	Ⅳa群。先端部残欠、塩屋石、成品、全面に研磨痕を有する、石剣か。	G9グリッド ⅡC層	『2000』p.187 図79-3	20
231	石棒	(8.7)	4.8	3.1	178.0	—	Ⅳa群。両端部欠損、塩屋石、全面に研磨痕を有する、石剣の未成品か。	D10グリッド	『2000』p.187 図79-4	20
232	石棒	(5.8)	3.0	2.1	61.3	—	Ⅳa群。身部残欠、塩屋石、成品、全面に研磨痕を有する。	H6グリッド ⅡC層	『2000』p.187 図79-5	20
233	石棒	(11.8)	2.8	2.1	87.9	—	Ⅳa群。身部残欠、塩屋石、成品、全面に研磨痕を有する、天地逆か(石刀の可能性あり)。	E7グリッド Ⅱ層	『2000』p.187 図79-6	20
234	石棒	(9.3)	3.4	2.8	131.9	—	Ⅳa群。片端部欠損、塩屋石、成品、全面に研磨痕を有する。	L7Ⅱグリッド	『2000』p.187 図79-7	20
235	石棒	(9.5)	3.5	2.9	135.1	—	Ⅳa群。両端部欠損、塩屋石、成品、全面に研磨痕を有する。	A地点	『2000』p.187 図79-8	20
236	石棒	(9.2)	5.0	4.1	291.3	—	Ⅳa群。片端部欠損、塩屋石、成品、敲打・研磨痕を有する。	J8グリッド Ⅱ層	『2000』p.187 図79-9	20
237	石棒	(14.2)	5.5	4.8	585.8	—	Ⅳa群。片端部欠損、塩屋石、成品、敲打・研磨痕を有する、片端部に連続した剥離痕あり。	F6グリッド	『2000』p.187 図79-10	20
238	石棒	(17.3)	5.7	4.2	577.8	—	Ⅳa群。頭部から身部残欠、塩屋石、成品、敲打・研磨痕を有する。	A地点	『2000』p.187 図79-11	20
239	石棒	(14.7)	6.0	5.5	618.5	—	Ⅳa群。頭部から身部残欠、塩屋石、成品、全面に研磨痕を有する、一部に敲打・剥離あり、頭部にわずかなくびれあり。	A地点	『2000』p.187 図79-12	20
240	石棒	(15.1)	6.6	5.4	753.1	—	Ⅳa群。身部残欠、塩屋石、成品、敲打・研磨痕を有する。	J7グリッド ⅡC層	『2000』p.187 図79-13	20
241	石棒	(16.6)	5.4	4.5	644.2	—	Ⅳa群。身部残欠、塩屋石、成品、敲打・研磨痕を有する、端部に剥離あり。	D5グリッド Ⅱ層	『2000』p.187 図79-14	20
242	石棒	(14.2)	4.2	3.8	384.0	—	Ⅳa群。頭部から身部残欠、塩屋石、成品、敲打・研磨痕を有する。	O7グリッド ⅡC層	『2000』p.188 図80-1	20
243	石棒	(9.9)	5.3	4.4	315.0	—	Ⅳa群。片端部欠損、塩屋石、成品、剥離・敲打・研磨痕を有する、礫面あり。	F6グリッド Ⅱ層	『2000』p.188 図80-2	20
244	石棒	(17.5)	6.2	4.5	809.6	—	Ⅳa群。片端部欠損、塩屋石、成品、全面に研磨痕を有する。	E5グリッド ⅡC層	『2000』p.188 図80-4	20
245	石棒	(8.5)	4.5	3.6	176.0	—	Ⅳb群。片端部欠損、塩屋石、成品、全面に研磨痕を有する、石刀か。	D6グリッド ⅡC層	『2000』p.188 図80-5	20
246	石棒	(10.9)	3.9	2.7	144.9	—	Ⅳb群。片端部欠損、塩屋石、成品、全面に研磨痕を有する、石刀か。	D7グリッド Ⅱ層	『2000』p.188 図80-6	20
247	石棒	(8.4)	3.1	1.5	55.9	—	Ⅳb群。両端部欠損、塩屋石、成品、全面に研磨痕を有する、石刀か。	D8グリッド ⅡC層	『2000』p.188 図80-7	20
248	石棒	(6.4)	3.7	3.1	81.8	—	Ⅳb群。両端部欠損、塩屋石、成品、全面に研磨痕を有する、石刀か。	H4グリッド Ⅱ層	『2000』p.188 図80-8	20
249	石棒	(6.3)	4.1	3.2	92.0	—	Ⅳb群。片端部欠損、塩屋石、成品、全面に研磨痕を有する、石刀か。	C4グリッド Ⅱ層	『2000』p.188 図80-9	20
250	石棒	(10.0)	3.2	2.6	103.6	—	Ⅳb群。片端部欠損、塩屋石、成品、全面に研磨痕を有する、石刀か。	E8グリッド ⅡC層	『2000』p.188 図80-10	20
251	石棒	(10.7)	3.7	3.1	160.9	—	Ⅳb群。身部残欠、塩屋石、成品、全面に研磨痕を有する、石刀か。	F11グリッド Ⅱ層	『2000』p.188 図80-11	20
252	石棒	(11.6)	3.5	2.5	142.6	—	Ⅳb群。片端部欠損、塩屋石、成品、全面に研磨痕を有する、刃部状の加工あり、石刀か。	H5グリッド	『2000』p.188 図80-12	20
253	石棒	(9.1)	4.0	3.3	156.0	—	Ⅳb群。片端部欠損、塩屋石、成品、敲打・研磨痕を有する、石刀か。	K18グリッド ⅡC層	『2000』p.188 図80-13	20
254	石棒	(9.9)	5.0	4.0	285.7	—	Ⅳb群。身部残欠、塩屋石、成品、全面に研磨痕を有する、石刀か。	I8グリッド ⅡC層	『2000』p.188 図80-14	20
255	石冠	6.6	3.5	7.9	(193.5)	90	上端及び下端部小欠。塩屋石。斧状の頭部をもち、頭部と基部の区分が明瞭。基部に沈線が巡る。	F5グリッド Ⅱ層	『2000』p.190 図81-4	20
256	石冠	13.1	4.3	6.6	429.0	100	完形。塩屋石。鋸状の頭部をもち、頭部と基部の区分が明瞭。下端面やや凹む。	E8グリッド ⅡC層	『2000』p.190 図81-2	20
257	石冠	(7.4)	4.7	(6.7)	(182.9)	70	頭部から基部一部欠損。塩屋石。斧状の頭部をもち、頭部と基部の区分が明瞭。基部に横位沈線及びV字状の沈線を施す。	C9グリッド ⅡC層	『2000』p.190 図81-3	20

第12表 塩屋金清神社遺跡出土石製品等一覧表(6)

番号	種類	法量 (cm)				遺存率 (%)	品質形状等	出土地点	報告書掲載番号	図版 No.
		長	幅	厚	重量 (g)					
258	石冠	14.4	4.5	5.9	(568.6)	90	基面一部欠損。塩屋石。鋸状の頭部をもち、頭部と基部の区分が不明瞭。一部に黒色付着物。	C9グリッド	『2000』p.190 図81-6	20
259	御物石器	7.5	16.5	6.6	843.1	100	完形。塩屋石。断面が三角形を呈する柱状節理を利用する。一辺のほぼ中央に挟りが設けられる。	G9グリッド II C層	『2000』p.190 図81-8	20
260	敲石	10.8	5.4	3.9	386.8	—	a類。頁岩、円礫の端部を使用。	O7グリッド II層	『2000』p.72 図48-1	21
261	敲石	10.2	5.4	4.4	367.2	—	a類。花崗岩、円礫の両端部を使用（敲打および研磨）。	N7グリッド II層	『2000』p.72 図48-2	21
262	敲石	11.8	6.6	4.6	507.7	—	a類。濃飛流紋岩、円礫の両端部を使用（敲打・および研磨）。	C7グリッド II層	『2000』p.72 図48-3	21
263	敲石	15.5	8.3	3.9	743.2	—	a類。安山岩、円礫の両端部および側縁を使用。	A地点	『2000』p.72 図48-4	21
264	敲石	8.3	7.0	2.7	205.5	—	a類。流紋岩。板状円礫の端部を使用（敲打）。	E3グリッド II層	—	21
265	敲石	9.2	6.9	4.2	340.9	—	a類。輝緑凝灰岩。円礫の上下端を使用（敲打）。	H6グリッド II C層	—	21
266	敲石	7.0	5.8	4.0	232.1	—	a類。輝緑凝灰岩。上下端を使用（敲打）。	C6グリッド II C層	—	21
267	敲石	14.2	4.3	4.0	416.7	—	a類。安山岩、棒状礫の上下端の敲打痕。	A地点	—	21
268	敲石	11.4	9.0	4.0	577.6	—	aもしくはb類（報告書「c類」）。流紋岩。円礫の端部（破面）を使用（敲打及び研磨）。	F7グリッド II C層	—	21
269	敲石	10.1	4.7	3.7	347.7	—	b類。輝緑凝灰岩、角礫の端部を使用（敲打および研磨）。	F6グリッド 中層	『2000』p.72 図48-8	21
270	敲石	16.0	6.2	4.9	809.7	—	b類。濃飛流紋岩、円礫の端部（破面）を使用（敲打および研磨）。	D5グリッド 中層	『2000』p.72 図48-9	21
271	敲石	11.6	7.9	4.7	820.5	—	b類。安山岩、円礫の端部（破面）を使用（敲打および研磨）。	C6グリッド	『2000』p.72 図48-10	21
272	敲石	10.7	6.8	3.8	463.8	—	b類。安山岩、円礫の端部（破面）を使用（敲打および研磨）。	D5グリッド 中層	『2000』p.72 図48-11	21
273	敲石	15.2	8.5	5.6	1,131.1	—	b類。輝緑凝灰岩、角礫の端部（破面）を使用（敲打および研磨）。	C7グリッド II層	『2000』p.72 図48-12	21
274	敲石	9.0	7.2	5.3	571.2	—	b類。流紋岩。円礫の端部（破面）を使用（敲打及び研磨）。	D6グリッド II C層	—	21
275	敲石	9.5	8.5	6.3	556.7	—	b類。流紋岩。円礫の端部を使用（敲打及び研磨（やや希薄））。	A地点	—	21
276	敲石	10.3	6.3	3.0	282.9	—	b類。安山岩。円礫の端部を使用（敲打）。	G6グリッド II層	—	21
277	敲石	8.5	4.8	2.3	150.4	—	b類。頁岩。円礫の端部に敲打痕。	M9グリッド II層	—	21
278	敲石	8.5	6.5	3.9	236.9	—	b類。安山岩。端部（破面）を使用（敲打及び研磨）。片面及び端部に礫面。	C8グリッド II C層	—	21
279	敲石	9.6	7.3	3.3	375.9	—	b類。濃飛流紋岩。円礫の端部に敲打痕。側面の破面に研磨痕か。	E7グリッド II C層	—	21
280	敲石	5.4	5.7	2.0	93.4	—	b類。蛇紋岩。円礫の端部に敲打痕。	J9グリッド	—	21
281	敲石	7.4	8.3	3.6	341.8	—	c類。頁岩。円礫の端部に複数の剥離による刃部（礫器様石器）。	C6グリッド	『2000』p.73 図49-1	21
282	敲石	10.1	8.3	5.0	554.4	—	c類。安山岩。円礫の端部に複数の剥離による刃部（礫器様石器）。	C5グリッド II層	『2000』p.73 図49-2	21
283	敲石	11.0	9.0	5.9	650.6	—	c類。濃飛流紋岩。円礫の端部に複数の剥離による刃部（礫器様石器）。刃部先端に潰れ及び擦り痕あり。	E5グリッド	『2000』p.73 図49-3	21
284	敲石	10.3	13.2	4.3	748.7	—	c類。飛騨片麻岩。円礫の端部に複数の剥離による刃部（礫器様石器）。先端わずかに潰れ。	D5グリッド 中層	『2000』p.73 図49-4	21
285	敲石	9.1	14.0	3.3	451.6	—	c類。安山岩。末端部の一部に潰れ。	G7グリッド II層	『2000』p.74 図50-1	21
286	敲石	7.4	11.0	5.3	406.2	—	c類。凝灰岩。円礫素材。端部の一部に潰れ（礫器様石器）。	J7グリッド II C層	『2000』p.74 図50-2	21
287	敲石	9.9	11.0	4.2	458.4	—	c類。流紋岩。円礫素材。先端に潰れ。	J8グリッド II層	『2000』p.74 図50-3	21
288	敲石	8.7	13.1	5.9	817.1	—	c類。頁岩。円礫素材。複数の剥離による刃部（礫器様石器）。節理面あり。	E5グリッド 下層	『2000』p.74 図50-4	21
289	敲石	7.0	6.0	3.1	181.1	—	c類。砂岩。円礫の端部に複数の剥離による刃部（礫器様石器）。	H5グリッド II層	—	21
290	敲石	9.2	6.2	3.0	243.1	—	c類。砂岩。円礫の端部に複数の剥離による刃部（礫器様石器）。	F9グリッド II C層	—	21
291	敲石	7.5	7.1	4.5	261.5	—	c類。安山岩。円礫素材。複数の剥離による刃部。頂部特に潰れ顕著。片面に礫面残存。	J6グリッド II層	—	21
292	敲石	8.2	7.0	4.6	458.4	—	c類。輝緑凝灰岩。円礫の端部に複数の剥離による刃部（礫器様石器）。	D13グリッド	—	21
293	敲石	10.0	6.8	5.4	470.8	—	c類。輝緑凝灰岩。端部に複数の剥離による刃部（礫器様石器）。	A地点	—	21

第13表 塩屋金清神社遺跡出土石製品等一覧表(7)

番号	種類	法量 (cm)				遺存率 (%)	品質形状等	出土地点	報告書掲載番号	図版 No.
		長	幅	厚	重量 (g)					
294	敲石	8.8	7.5	4.0	354.6	—	c類。輝緑凝灰岩。端部に敲打痕。片面が礫面。	C6グリッド II C層	—	21
295	敲石	10.9	8.0	5.4	401.1	—	c類。輝緑凝灰岩。上部部に敲打痕。片面が礫面。	L8グリッド II C層	—	21
296	敲石	8.8	7.8	3.6	425.9	—	c類。輝緑凝灰岩。端部に敲打痕。片面が礫面。	L8グリッド II C層	—	21
297	敲石	10.3	6.8	3.5	417.5	—	c類。流紋岩。円礫の上下端使用（敲打）。	G9グリッド II C層	—	21
298	敲石	9.0	5.5	4.4	325.1	—	c類。蛇紋岩。円礫の端部に複数の剥離による刃部（礫器様石器）。	I4グリッド II C層	—	21
299	敲石	11.8	7.9	4.0	394.9	—	c類。砂岩。円礫の端部に敲打痕。	J10グリッド	—	22
300	敲石	7.6	8.7	7.4	571.0	—	c類。濃飛流紋岩。端部に敲打痕及び擦痕。礫面あり。	D6グリッド II C層	—	22
301	敲石	9.2	6.8	4.9	394.6	—	c類。濃飛流紋岩。円礫の端部に複数の剥離による刃部（礫器様石器）。片端は破断面。	I7グリッド II d層	—	22
302	敲石	9.3	4.7	2.4	173.4	—	c類。凝灰岩。板状円礫の端部に複数の剥離による刃部。	A地点	—	22
303	敲石	6.4	9.2	2.1	169.2	—	d類。砂岩。縁辺部に複数の剥離による刃部（横刃形石器類似）。片面が礫面。	09グリッド II 層	『2000』p. 75 図51-1	22
304	敲石	7.2	9.6	2.6	219.5	—	d類。凝灰質流紋岩。縁辺部に複数の剥離による刃部（横刃形石器類似）。片面が礫面。	E5グリッド 中層	『2000』p. 75 図51-2	22
305	敲石	8.2	9.3	2.8	241.2	—	d類。凝灰岩。縁辺部に複数の剥離による刃部（横刃形石器類似）。頂部特に潰れ顕著。片面が礫面。	E6グリッド II C層	『2000』p. 75 図51-3	22
306	敲石	8.4	9.3	3.5	277.5	—	d類。凝灰質流紋岩。縁辺部に複数の剥離による刃部（横刃形石器類似）。刃部先端潰れ顕著。片面に礫面残存。	E8グリッド II 層	『2000』p. 75 図51-4	22
307	敲石	8.9	12.0	3.4	474.8	—	d類。凝灰質流紋岩。縁辺部に複数の剥離による刃部（横刃形石器類似）。片面が礫面。	B7グリッド	『2000』p. 75 図51-5	22
308	敲石	8.5	13.1	3.4	572.1	—	d類。凝灰質流紋岩。端部に敲打痕。片面が礫面。	K8グリッド II C層	『2000』p. 76 図52-1	22
309	敲石	9.7	13.9	2.7	449.8	—	d類。濃飛流紋岩。端部に敲打痕。片面が礫面。	A地点	『2000』p. 76 図52-2	22
310	敲石	9.5	14.1	3.7	584.6	—	d類。濃飛流紋岩。端部に敲打痕。片面が礫面。	D5グリッド 下層	『2000』p. 76 図52-3	22
311	敲石	13.1	14.8	3.7	720.0	—	d類。凝灰質流紋岩。縁辺部に複数の剥離による刃部。片面が礫面。	A地点	『2000』p. 76 図52-4	22
312	敲石	6.5	8.3	3.1	192.5	—	d類。頁岩。端部に敲打痕。片面が礫面。	G3グリッド II 層	—	22
313	敲石	8.6	8.4	2.6	203.0	—	d類。砂岩。縁辺部に複数の剥離による刃部（横刃形石器類似）。片面が礫面。	D5グリッド II 層	—	22
314	敲石	9.3	5.6	2.8	170.0	—	d類。凝灰岩。端部の先頭部潰れ顕著。片面が礫面。	F15グリッド	—	22
315	敲石	7.8	9.3	2.8	(251.0)	—	d類。安山岩。縁辺部に複数の剥離による刃部（横刃形石器類似）。片面はほぼ礫面。	C6グリッド II C層	—	22
316	敲石	9.2	8.2	4.1	363.5	—	d類。流紋岩。端部全体的に敲打痕。片面が礫面。	K5グリッド II 層	—	22
317	敲石	6.7	9.6	2.4	228.8	—	d類。流紋岩。端部全体的に敲打痕。片面が礫面。	H6グリッド II 層	—	22
318	敲石	9.5	6.5	2.0	153.0	—	d類。凝灰岩。縁辺部に剥離による刃部（潰れあり）。片面が礫面。	A地点	—	22
319	敲石	7.5	10.0	2.7	297.2	—	d類。安山岩。端部に敲打痕。片面がほぼ礫面。	G8グリッド II C層	—	22
320	敲石	13.7	4.5	5.1	395.8	—	d類。流紋岩。三稜円礫の端部（破面）を使用（敲打及び研磨（希薄））。	L8グリッド II 層	—	22
321	敲石	9.5	7.1	2.4	206.8	—	d類。安山岩。端部に複数の剥離による刃部（潰れあり）。片面に礫面残存。	I7グリッド II C層	—	22
322	敲石	11.0	8.7	3.7	379.0	—	d類。流紋岩。端部に複数の剥離による刃部。片面が礫面、破面わずかに劣化。	F6グリッド II C層	—	22
323	敲石	6.3	9.2	1.8	134.7	—	d類。砂岩。板状円礫の縁辺部に複数の剥離による刃部（横刃形石器類似）。	F7グリッド II C層	—	22
324	敲石	6.7	9.4	2.7	187.5	—	d類。頁岩。端部に複数の剥離による刃部。片面に礫面残存。	E9グリッド II C層	—	22
325	敲石	9.3	10.7	2.6	283.5	—	d類。砂岩。端部に複数の剥離による刃部。刃部の潰れ顕著。片面が礫面。	D6グリッド II C層	—	22
326	敲石	7.7	10.5	4.0	345.5	—	d類。安山岩。端部に複数の剥離による刃部。片面に礫面残存。	E14グリッド II 層	—	22
327	敲石	7.2	6.6	2.2	152.7	—	d類。石英斑岩。端部に複数の剥離による刃部。一部刃部の潰れ顕著。片面が礫面。	G6グリッド II C層	—	22
328	敲石	6.2	9.2	2.2	176.8	—	d類。頁岩。端部に複数の剥離による刃部。一部刃部の潰れ顕著。片面に礫面残存。	J9グリッド II 層	—	22
329	敲石	6.7	9.2	2.2	174.2	—	d類。濃飛流紋岩。端部に複数の剥離による刃部。一部刃部の潰れ顕著。片面が礫面。	H9グリッド II 層	—	22

第14表 塩屋金清神社遺跡出土石製品等一覧表(8)

番号	種類	法量 (cm)				遺存率 (%)	品質形状等	出土地点	報告書掲載番号	図版 No.
		長	幅	厚	重量 (g)					
330	砥石	18.6	9.0	6.2	1,577.7	—	砂岩。据置砥石。側面に黒色付着物。	L7グリッド 上層	『2000』p.84 図59-1	23
331	砥石	19.6	17.5	9.7	4,642.6	—	砂岩。据置砥石。表面から側面にかけて数条の筋あり。	E8グリッド II C層	『2000』p.8 図59-2	23
332	砥石	23.3	13.7	7.6	3,260.6	—	砂岩。据置砥石。砥面にわずかな筋あり。	G6グリッド II C層	『2000』p.84 図59-3	23
333	砥石	15.8	14.0	5.3	2,144.8	—	砂岩。据置砥石。砥面に細かな敲打痕あり。	F7グリッド II C層	『2000』p.84 図59-4	23
334	砥石	29.8	25.9	7.6	5,382.2	—	塩屋石。据置砥石。石皿か。	A地点	『2000』p.85 図59-5	23
335	砥石	20.3	10.0	4.5	1,359.4	—	砂岩。据置砥石。側面にも顕著な砥面。	Q10グリッド	『2000』p.84 図59-6	23
336	砥石	27.4	11.7	5.9	2,054.0	—	砂岩。据置砥石。表裏面に砥面（表面は破面）。一部被熱による赤化。	A地点	『2000』p.84 図59-7	23
337	砥石	47.0	27.8	9.5	12,240.0	—	塩屋石。据置砥石。長軸方向に多数の筋あり。	A地点	『2000』p.84 図59-8	23
338	砥石	(15.0)	13.6	4.9	1,381.8	—	砂岩。据置砥石残欠。報告書「台石」。	O11グリッド	—	23
339	砥石	18.5	17.5	5.2	1,785.1	—	砂岩。据置砥石。表面と側面の凹みに砥面。報告書「台石」。	D6グリッド II C層	—	23
340	砥石	11.2	16.8	7.2	2,053.8	—	砂岩。据置砥石。片面は破断面。表面の一部と片側面に凹み状の砥面。報告書「台石」。	G3グリッド II 層	—	23
341	砥石	11.3	11.6	7.1	1,123.0	—	砂岩。据置砥石。表裏面及び側面に砥面。片面は破断面。片端部に敲打痕。報告書「台石」。	C8グリッド II C層	—	23
342	砥石	16.7	(7.7)	6.2	1,085.7	—	砂岩。据置砥石残欠。片砥面に弧状の黒色筋。片砥面に溝状の筋あり。破断面は被熱による赤化。	D5グリッド II C層	—	23
343	砥石	17.8	11.1	4.3	1,299.1	—	安山岩。据置砥石。表裏面にうすく砥面あり。表裏面とも砥面に剝離面あり（砥面使い分けの痕跡か）。報告書「台石」。	F5グリッド II 層	—	23
344	砥石	14.4	9.9	6.8	1,023.4	—	砂岩。据置砥石（手持ち砥石の可能性あり）。破断面を砥面として使用する。破断面は被熱による赤化。	E7グリッド II C層	—	23
345	砥石	10.6	13.1	3.7	894.8	—	砂岩。据置砥石。側面に凹み状の砥面あり。報告書「台石」。	C8グリッド II C層	—	24
346	砥石	17.7	11.8	5.8	1,406.3	—	安山岩。据置砥石。表面に2種の砥面あり（礫面と破面）。	D5グリッド II 層	—	24
347	砥石	(17.0)	13.6	5.9	1,610.0	—	安山岩。据置砥石残欠。	A地点	—	24
348	砥石	31.5	23.8	6.8	7,280.0	—	砂岩。据置砥石。研磨度合が非常に顕著。	M8グリッド II C層	—	24
349	砥石	18.2	17.5	7.5	2,250.6	—	砂岩。据置砥石。接地面欠損。表面に2種の砥面あり（礫面と破面）。	E5グリッド II C層	—	24
350	砥石	24.5	16.5	(9.7)	3,266.1	—	砂岩。据置砥石。接地面欠損。	N8グリッド	—	24
351	砥石	18.1	12.5	6.2	2,008.2	—	濃飛流紋岩。据置砥石。表面及び側面の凹みに砥面。側面一部に被熱による赤化か。報告書「台石」。	B6グリッド	『2000』p.77 図53-2	24
352	砥石	16.8	14.8	5.8	2,107.7	—	砂岩。据置砥石。表裏面に砥面。報告書「台石」。	C8グリッド	『2000』p.77 図53-3	24
353	砥石	18.3	7.5	8.8	2,064.7	—	安山岩。据置砥石。表面に砥面。両端部に敲打痕。報告書「台石」。	I6グリッド 中層	『2000』p.77 図53-4	24
354	剥片	2.4	1.6	0.6	2.0	—	塩屋石。	E5グリッド IV層	—	24
355	剥片	3.5	2.5	0.6	4.6	—	塩屋石。	E5グリッド V層	—	24
356	剥片	3.3	1.5	0.9	5.3	—	塩屋石。やや厚手。	E5グリッド V層	—	24
357	剥片	3.7	2.5	0.9	5.9	—	塩屋石。	E5グリッド 8層	—	24
358	剥片	3.6	1.8	0.6	3.4	—	塩屋石。薄手。	C5グリッド 下層	—	24
359	剥片	3.5	2.1	0.8	5.2	—	塩屋石。打痕顕著。	E5グリッド VII層	—	24
360	剥片	3.2	1.9	0.4	2.7	—	塩屋石。薄手。	E5グリッド 8層	—	24
361	剥片	2.7	1.5	0.4	1.7	—	塩屋石。薄手。	E5グリッド V層	—	24
362	剥片	2.8	1.6	0.9	3.5	—	塩屋石。やや厚手。	E5グリッド 8層	—	24
363	剥片	2.6	1.9	0.4	2.6	—	塩屋石。打痕顕著。	E5グリッド 8層	—	24
364	剥片	2.0	1.6	0.5	2.4	—	塩屋石。	C5グリッド 下層	—	24
365	剥片	3.2	1.9	0.9	4.7	—	塩屋石。やや厚手。黒雲母が目立つ。	E5グリッド 8層	—	24

第15表 塩屋金清神社遺跡出土石製品等一覧表(9)

番号	種類	法量 (cm)				遺存率 (%)	品質形状等	出土地点	報告書掲載番号	図版 No.
		長	幅	厚	重量 (g)					
366	剥片	4.0	2.7	1.0	8.5	—	塩屋石。やや厚手。	E5グリッド6層	—	24
367	剥片	3.8	2.2	0.3	3.2	—	塩屋石。薄手。	E5グリッド8層	—	24
368	剥片	4.0	2.8	1.1	10.7	—	塩屋石。厚手。	G5グリッド	—	24
369	剥片	4.0	3.1	1.4	9.1	—	塩屋石。角礫。黒雲母が目立つ。	E5グリッドVII層	—	24
370	剥片	5.5	4.2	1.1	25.8	—	塩屋石。板状。打瘤顕著。黒雲母が目立つ。	E5グリッドVII層	—	24
371	剥片	5.5	3.9	0.9	24.1	—	塩屋石。板状。打瘤あり。黒雲母が目立つ。	G6グリッド上層	—	24
372	剥片	5.8	4.1	2.1	41.0	—	塩屋石。厚手。大形。	E5グリッドVII層	—	24
373	剥片	2.1	1.9	0.4	1.9	—	塩屋石。薄手。打瘤あり。	E5グリッド6層	—	24
374	剥片	2.1	2.0	0.4	1.4	—	塩屋石。薄手。	E5グリッドV層	—	24
375	剥片	2.9	1.7	0.5	3.0	—	塩屋石。薄手。板状。	C5グリッド上層	—	24
376	剥片	3.0	2.0	0.6	2.6	—	塩屋石。薄手。湾曲あり(稜の調整剥片か)。	E5グリッドV層	—	24
377	剥片	2.9	2.3	0.6	3.9	—	塩屋石。薄手。	E5グリッドIII層	—	24

凡例

法量欄における () 数字は遺存値、 [] 数字は復元値を表す
 報告書掲載番号『 』内の数字は報告書刊行年を表す
 塩屋石は黒雲母流紋岩質溶結凝灰岩のことを言う

分類

島遺跡の土器分類

- 2群2類：北陸系古府式に比定できる深鉢のうち、器形は胴部がほぼ垂直に立ち上がり頸部がく字状に屈曲するものが多い
- 3群1類：北陸系古串田新式に比定できる深鉢のうち、胴部がゆるく外反して口縁部が立ち上がり口縁形状が平縁のもの
- 6群1類：縄文時代中期中葉に位置づけることができる深鉢のうち、半裁竹管状工具を押し当てて半弧曲線を描きだしたもの
- 6群3類：縄文時代中期中葉に位置づけることができる深鉢のうち、半裁竹管状工具による隆帯と沈線を施すもの
- 6群4類：縄文時代中期中葉に位置づけることができる深鉢のうち、地文に縄文が条線を施し口縁下に1~2条の沈線を巡らせる深鉢
- 8群：串田新1式の影響を受けて成立した在地系深鉢
- 11群：信州系唐草文系第3段階に比定できる深鉢
- 12群：信州系唐草文系土器の影響を受けて成立した在地系深鉢
- 17群1類：縄文地、条線地、沈線地、擦糸文地深鉢並びに無文深鉢等のうち、胴部がやや張り頸部が括れて外反するもの
- 13群：関東系加曾利EⅢ式と併行関係にある深鉢
- 20群3類：浅鉢のうち、口縁下に隆帯を施し棒状工具による烈点を刺突するもの
- 20群5類：浅鉢のうち無文のもの分類

塩屋金清神社遺跡の石棒分類

- 第I群：原石の稜線・自然面が多く残り、原石の断面形の認識が容易なもの
- 第II群：原石の稜線・自然面が消えつつあるが、原石の断面形の認識が可能なもの
- 第III群：原石の稜線・自然面がほとんど消え、原石の断面形の認識が困難なもの
- 第IV群：原石の稜線・自然面が消え、完成品あるいは完成とみなされるもの

- 剥離段階 F 類：剥離工程にあたるもので、剥離調整が行われたもの
- 敲打段階 P 類：原石の稜線を直接敲打し、剥離工程が省略されたもの
- FP 類：剥離工程を行ったのち、敲打工程に進んだもの
- PP 類：敲打が進み、前段階の工程が確認できないもの。P類またはFP類の工程が進んだもの
- 研磨段階 G 類：原石の稜線を直接研磨するもの、剥離工程および敲打工程の省略されたもの
- FG 類：剥離工程のものに研磨を加え、敲打工程が省略されたもの
- FPG 類：剥離工程、敲打工程を経て、研磨工程に進んだと観察できるもの
- PG 類：剥離工程が省略された敲打工程のものに、研磨が加えられたもの、P類から研磨段階に移行したもの
- PPG 類：敲打が進み、敲打段階以前の状況が確認できないものに、研磨が加えられたもの。PP類から研磨段階に移行したもの
- GG 類：研磨が進み、前段階の工程が確認できないもの

塩屋金清神社遺跡の敲石分類

- a類：自然礫の端部をそのまま使用したもの
- b類：二次的な加工の認められるもののうち、自然礫の端部に鈍角の単一剥離面を設けたもので剥離面の稜線を使用しているもの
- c類：二次的な加工が認められるもののうち、自然礫あるいは厚手の剥片に複数の剥離によって刃部を作り出したもので、いわゆる礫器・礫器様石器
- d類：厚手の剥片の縁辺を使用するもの、または剥片に二次的な調整を加え、楕円形または円形に成形したもので、横刃形石器に類似するが、顕著な敲打痕が認められる

報告書等一覧

1. 『2000』：宮川村教育委員会2000『塩屋金清神社遺跡(A地点)発掘調査報告書』
2. 『2012』：飛騨市教育委員会2012『飛騨市文化財調査報告書4：島遺跡2・塩屋金清神社遺跡3』

第3章 総括

第1節 島遺跡・塩屋金清神社遺跡における縄文土器と石棒製作の変遷

これまで、縄文土器と石製品等を詳細に報告した。本節では、その成果をまとめ、縄文土器の年代観から時代ごとの様相を示し、それに伴う石棒等の変遷を示したい。

島遺跡 中期中葉では、1の古府式、2の古串田新式に挙げられるような北陸系土器の割合が最も高く、次いで3～7などの在地系土器が多い。中期後葉は遺物量が増加する。8は北陸系串田新Ⅰ式の影響を受けた在地系土器、9は北陸系串田新Ⅱ式に位置づけられる浅鉢である。10は中期末葉の北陸系前田・岩畷野式の浅鉢である。一方、11～13にみられるような信州系唐草文系第3段階とその影響下にある在地系土器、14の関東系加曾利EⅢ式なども出土する。このことから中期後葉から末葉は、北陸系・在地系土器が優位な土器様相を示すものの、信州系・関東系土器が認められはじめる時期と言える。

石製品では、大型石棒の完成品に加え、原石、剝離段階、敲打段階、研磨段階という各製作段階に相当する資料が認められる。研磨段階29は長さ116.6cmを測り、両端部が遺存していることから完成品の大きさを具体的に示すものである。また、原石19は埋設土器の蓋石として、剝離段階22は樹立して出土したものである。これまで石棒の未成品と判断してきた原石や剝離段階のものが、使用されている状況を確認した。石棒31など破断面が被熱により赤化している資料もあり、製作から使用、廃棄に至る過程で火熱を用いた可能性が想定された。さらに、敲石と砥石といった工具類が出土した。敲石は主に砂岩製で円礫や棒状円礫を素材とし、砥石は主に手持ちの大きさで大型石棒の研磨に適する特徴を持つ。

これらから、島遺跡は、縄文時代中期中葉から後葉・末葉にかけて大型石棒を製作・使用・廃棄した集落遺跡と考えられる。また、石棒の分布は飛騨市域・富山県域を中心としており、縄文土器で北陸系が多く出土する状況と整合し、北陸方面との繋がりの強さが確認された。

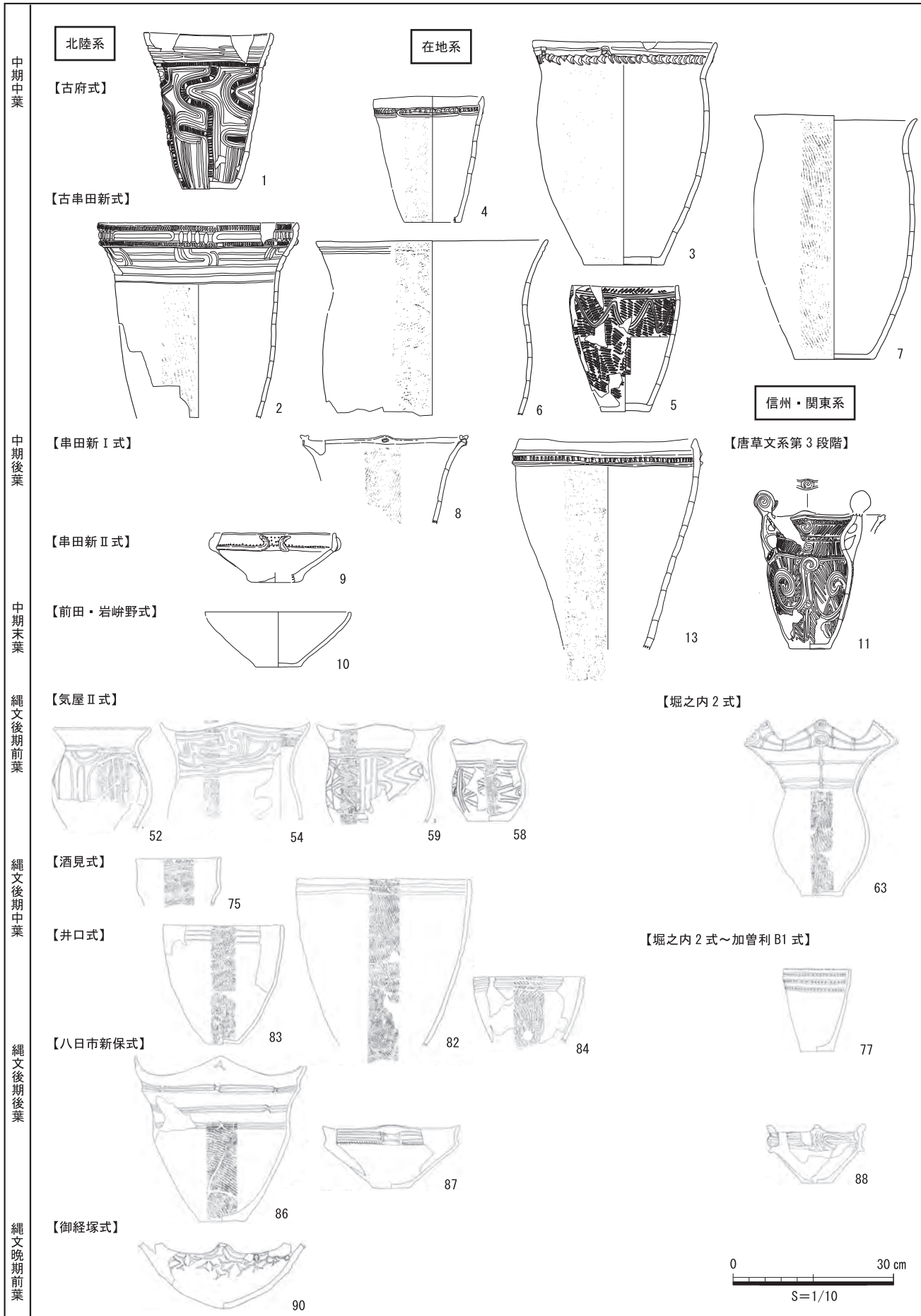
塩屋金清神社遺跡 縄文土器では、後期前葉の割合が最も高い。52～61は北陸系気屋Ⅱ式、62～71は関東系堀之内Ⅱ式であり、当該期はこれら2系統の土器が主体となる。

後期中葉は遺物量が減少するものの、75の北陸系酒見式深鉢、77～79の関東系堀之内Ⅱ式～加曾利B1式小型深鉢がみられ、前葉で主体となった北陸系・関東系土器の流れが引き継がれる。また、73のような元住吉山Ⅰ式もあり、西日本系土器も入る。

後期後葉以降は、82～84の北陸系井口式、85～87の八日市新保式に見られるように、北陸系土器が中心となる。後期前葉から中葉に北陸系土器と並んで多くの割合を占めていた関東系土器は減少するが、口縁下の隆帯と沈線の文様が信州系の影響と考えられる88が認められる。

晩期前葉からは遺物の減少傾向がより一層強まる。89・90は北陸系御経塚式であり、晩期では北陸系土器が主体となる。

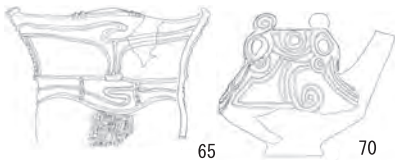
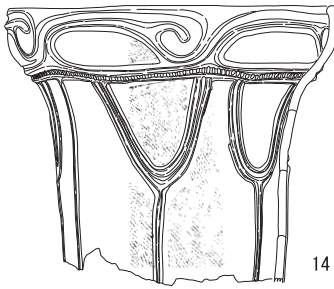
以上のように、塩屋金清神社遺跡は後期前葉を中心に遺跡が営まれたと考えられる。土器系統からは、島遺跡と同様に継続的に北陸の影響下にあり、遺物量が豊富な後期前葉は信州系・関東系の割合が高くなり、中葉から後葉にかけては西日本系なども若干入り、各地と繋がりのある状況が明らかになった。



第2図 島遺跡・塩屋金清神社遺跡出土品の変遷図(1)

島遺跡

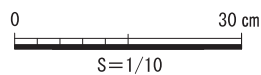
【加曾利EⅢ式併行】



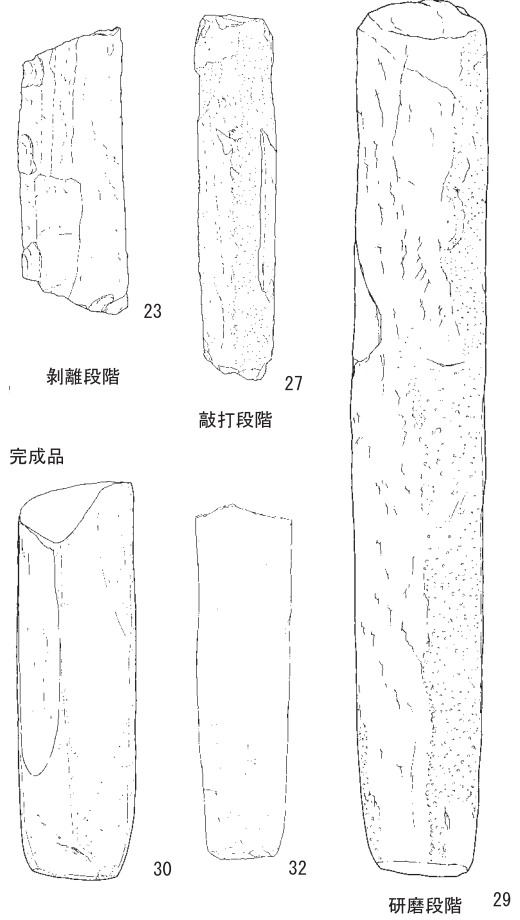
塩屋金清神社遺跡

【元住吉山式】

西日本系



<島遺跡出土>



<塩屋金清神社遺跡出土>

【東正院型（垣内型）】



【成興野型】



石剣カ

石刀カ



石冠



御物石器

第3図 島遺跡・塩屋金清神社遺跡出土品の変遷図(2)

石製品では、石棒の完成品に加え、原石、剥離段階、敲打段階、研磨段階という各製作段階に相当する資料が大量に認められる。それらの中には、剥離を省略したり、原石を直接研磨したりする等、多様な加工工程が確認された。厚さ・幅は5 cm前後のものが多く、未成品を含めても島遺跡でみられた直径10 cm以上の資料は限定的である。これらを詳細に分類したのが長田友也である（長田 2022）。長田によると、塩屋金清神社遺跡出土の石棒は、東北地方や関東地方に由来する「小型石棒」類に対する代替品・模造品として製作され、これらは後期前葉から中葉前半の「東正院型（垣内型）石棒」と、後期後半の「成興野型石棒」に分類されるとのことである。また、「東正院型（垣内型）石棒」は、無頭で先端部に横位の二条沈線を施し、「成興野型石棒」は有頭であるため、未成品のものでも頭部作出の意識がみられるものは「成興野型石棒」が志向されたものと考えた。このような多様な加工工程があり、石剣や石刀と見られる刃部を持つ破片資料も認められ、石冠や御物石器の完成品も出土することから、石棒製作以外の石器製作の可能性も示唆される。

敲石と砥石の工具類、剥離段階で生じたと推察される剥片が出土した。敲石は形態と使用痕から4種に分類でき、製作段階に応じた使い分けがあった可能性を想定できる。剥離段階に生じたと想定される剥片も認められる。砥石は比較的大型で据置砥石として使用したと考えられる。これらのことから、塩屋金清神社遺跡では、縄文時代後期前葉から中葉までは石棒を中心に製作していたと考えられ、後期後葉から晩期にかけても石棒をはじめとした石製品を製作していたと考えられる。

なお、石棒の分布は飛驒市域・富山県域にとどまらず、南は高山市の寺東遺跡の石棒や郡上市の店町遺跡の石冠が知られている（飛驒市教育委員会 2012）。このことは、多様な系統の縄文土器が出土することと整合する。

第2節 島遺跡・塩屋金清神社遺跡出土品の価値

両遺跡の出土品から、縄文土器においては、縄文時代中期から後期・晩期にわたり北陸系土器の影響を受け続け、その中でも中期後葉から後期前葉までは信州系・関東系など異なる地域の影響を受けた状況が明らかになった。また、石製品においては、石棒の完成品と、原石・剥離・敲打・研磨段階の資料及び石製品の加工具の出土から、縄文時代中期及び後期における石棒の製作工程を明らかにすることができた。とともに、各製作段階と工具類から多様な製作の様相があること、中期の手持ち砥石と後期の据置砥石から研磨の工程の相違点が想定されること、塩屋金清神社遺跡のみ剥片が認められることから、原石搬入状況の相違点が想定されることなどを指摘することができる。

以上のように、島遺跡・塩屋金清神社遺跡出土品は、近傍の山林で産出する原石をもとに、縄文時代中期から後・晩期にかけて石棒を主とした「塩屋石」製の石製品製作に関わる資料群と位置付けることができる。

このような成果は、岐阜県重要文化財の指定物件及び既存の発掘調査報告書掲載資料から導き出されたものである。今後の課題として、発掘調査報告書に未掲載の縄文土器の再整理が挙げられる。それにより、関東系土器が一定割合認められる縄文時代後期前葉と、割合が低くなる後期中葉以降の相違点等が明らかになる可能性が想定される。

第3節 島遺跡・塩屋金清神社遺跡出土品の保存活用の現状と展望

当調査事業は、2018（平成30）年度に文化振興課が文化財保護審議会に相談し、「市全体の文化財の保存活用に寄与するものについて市が重点的に取り組むことで、市全体の文化財に対する保護意識を高め、各住民による自発的な保存活用の取り組みを促す」案件として位置づけられ、継続してきた。

保存活用事業としては、2017（平成29）年度に飛驒市美術館企画展「石棒の聖地・塩屋を掘る」展を開催し、島遺跡出土品20点、塩屋金清神社遺跡出土品1000点程度の石棒とその工具類を一室に並べた。また、2022（令和4）年度には、11月3日に長田友也氏を講師として「かたち」からみた塩屋の石棒」と題した講演会を、文化庁の補助を受けて石棒クラブが実施した。このような普及事業と並行して、石棒クラブによる石棒の画像公開と3Dデータの公開、石棒神経衰弱など実物に触れる企画も実施してきた。

画像公開は、石棒撮影会にて参加者により取得されたデータを、SNSや飛驒市画像オープンデータサイト（<https://openphoto.app/c/hidacity>）に掲載する事業である。3Dデータ公開は、一般の参加者により取得されたデータを、スケッチファブ（<https://sketchfab.com/sekibo.club>）やカルプティコンというポータルサイトにて公開する事業である。石棒神経衰弱は、箱の中の実物資料に触れ、3Dデータを見て特定するレクリエーションである（井上ほか2025）。いずれの取組も、参加者が実物に触れることを特徴とする。実物に大切に触れて愛着が生じ、誰もが情報を取得・公開・使用できる在り方が賛同を生み、支援者が増えた。これは関係人口研究（杉本ほか2020）を基に取り入れた仕組みである（三好2025）。

以上のように、継続した調査研究と共に、それらを基にした多様な成果の発信、愛着を高める取組を進めてきた。それにより、結果として島遺跡・塩屋金清神社遺跡出土品の保存活用への意識が高まってきたと考えられる。今後も、当調査で明らかになった価値を発信し、保存と活用が循環する仕組みの確度を高め、資料の継承に努めていきたい。



写真1 整理作業の様子 2024年6月



写真2 土器観会の様子 2025年4月



写真3 写真撮影の様子 2025年9月



写真4 飛驒神岡高校での石棒神経衰弱 2024年11月

引用・参考文献

- 井上隼多・橋本真之介・小林遼香・中嶋大倫・保谷里歩 2025 「文化財 3D データを活用したユニバーサル・ワークショップ「石棒神経衰弱」の挑戦」『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用』7 奈良文化財研究所
- 江馬修（赤木清）1937 「吉城郡坂下村打保出土の石冠と枕石」『ひだびと』第5年第10号
- 岡巖 1887 「飛驒の石器」『東京人類学会雑誌』第3巻第21号
- 奥美濃地域研究会 2006 「岐阜県奥美濃地域の遺跡紹介 2 一郡上市立明宝歴史民俗資料館収蔵資料の紹介 その2-」『美濃の考古学』第9号 美濃の考古学刊行会
- 長田友也 2000 「石棒の製作遺跡」『季刊考古学』第73号 雄山閣出版
- 長田友也 2022 「中部地方における縄文時代後期の小型石棒類—遠隔地における儀器の受容について—」『旃檀林の考古学 大竹憲治先生古希記念論文集』大竹憲治先生還暦記念論文集刊行会
- 長田友也 2024 「縄文時代後期前半の小型石棒」『列島の考古学III』渡辺誠先生追悼論集
- 小島俊彰 2007 「桜町遺跡の縄文時代中期後葉から後期初頭土器の位置付け」『桜町遺跡発掘調査報告書 縄文時代総括編』小矢部市教育委員会
- 小林達雄編 2008 『総覧縄文土器』株式会社アム・プロモーション
- 齋藤基生 2002 「石器の石材」『愛知県史』（資料編1 考古1 旧石器・縄文）愛知県史編さん委員会
- 佐藤泰郷 1886 『千代の鏡、千代乃かじみ 捨遺』
- 杉本あおい・杉野弘明・上田昌子・船坂香菜子 2020 「現代日本社会における「関係人口」の実態分析：全国アンケート調査の結果から」『沿岸域学会誌』第33巻第3号 日本沿岸域学会
- 高山市教育委員会 1988 『寺東遺跡、西保木（対岸）遺跡』
- 東海縄文研究会 2009 『飛驒地方における縄文時代中期中葉から後葉の諸様相資料集』東海縄文研究会第8回研究会（岐阜県）
- 東海縄文研究会 2022 『東海からみた後期前葉土器群 その3』東海縄文研究会第9回例会予稿集
- 東海縄文研究会 2024 『東海からみた後期前葉土器群 1予稿集』第19回東海縄文研究会・静岡大会 第3回東海縄文研究会シンポジウム
- 南山大学人類学博物館 1981 『塩屋金清神社遺跡』人類学博物館紀要第3号
- 早川荘作 1940 「吉城郡塩屋発見の土製品」『ひだびと』第8年第7号
- 林魁一 1941 「飛驒塩屋発見の土偶」『ひだびと』第9年第3号
- 林直樹 1992 「柱状節理利用の石棒製作址」『季刊考古学』第41号 雄山閣出版
- 林直樹 2007 「石棒製作のムラ—塩屋金清神社遺跡—」『縄文時代の考古学』6 同成社
- 飛驒市教育委員会 2012 『島遺跡2・塩屋金清神社遺跡3』飛驒市文化財調査報告書第4集
- 宮川村教育委員会 1995 『石棒の謎をさぐる』飛驒みやがわシンポジウム
- 宮川村教育委員会 1999 『塩屋金清神社遺跡 B 地点発掘調査報告書』
- 宮川村教育委員会 2000 『塩屋金清神社遺跡（A 地点）発掘調査報告書』
- 宮川村教育委員会 2002 『宮ノ前遺跡III・塩屋島遺跡』
- 三好清超 2025 「文化財デジタルアーカイブで社会はどのように変わったか」『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用』7 奈良文化財研究所